

2026

OSAKA SANGYO UNIVERSITY

HAND  
BOOK

デザイン工学部  
工学部

編入生

このハンドブックは、修学に関する諸規程を簡潔にまとめたマニュアルです。学則・修学規程等の基幹規程は、教務課Webページ(以下QRコード)から項目を閲覧することができます。

[1]教務課



[2]Web履修申請  
支援メニュー



[1]大学TOPページ → 在学生の方 → 教務課

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| ①学生証と学籍番号      | ⑤各種届出・証明書(在学生向け) |
| ②授業(休講・補講・欠席等) | ⑥学籍異動(休学・退学・除籍等) |
| ③授業料(等)の納付について | ⑦授業の欠席および欠席届について |
| ④通学・学割         | ⑧出席情報システムについて    |

更に・・・

[2]大学TOPページ → 在学生の方 → 教務課 → Web履修申請支援メニュー

- |             |                |
|-------------|----------------|
| ①Portal-OSU | ⑤Web履修申請ガイドブック |
| ②学年暦、行事日程   | ⑥Webシラバス(授業計画) |
| ③ハンドブック     | ⑦学生便覧          |
| ④講義時間割      | ⑧教科書販売         |

ハンドブック(冊子)は、入学時のみに配付します。

学籍番号

名前

# CONTENTS

## Chapter 01

教務事項についての注意等	3
--------------	---

## Chapter 02 入学生

1年生から入学された学生向けのため、本冊子には掲載がありません

## Chapter 03 編入生

カリキュラム、履修についての注意等

### デザイン工学部

●情報システム学科 (24H)	35
●建築・環境デザイン学科 (24M)	49
●環境理工学科 (24V)	63

### 工学部

●機械工学科 (24F)	83
●交通機械工学科 (24G)	101
●都市創造工学科 (24K)	117
●電気電子情報工学科 (24L)	137



# Chapter 01

大学における入学から卒業まで	3
教務課案内	4
各種 届出・願出	5
学生証と学籍番号	6
通学・学割	8
各種証明書	9
ポータルシステム (Portal-OSU)	10
産大モバイル	11
Wi-Fi (無線LAN)	11
情報科学センター案内	12
保護者ポータルサイト	12
学期と授業時間	13
履修申請	13
単位を修得するための学修時間	16
出席情報システム	16
身体科学科目について	17
授業 (休講・補講・欠席 等)	18
定期試験	20
追試験	22
成績	23
成績表の見方	24
GPA制度と修学指導・退学勧告	26
授業料 (等) の納入について	27
学籍異動 (休学・退学・除籍 等)	28
転科・学部変更について	30



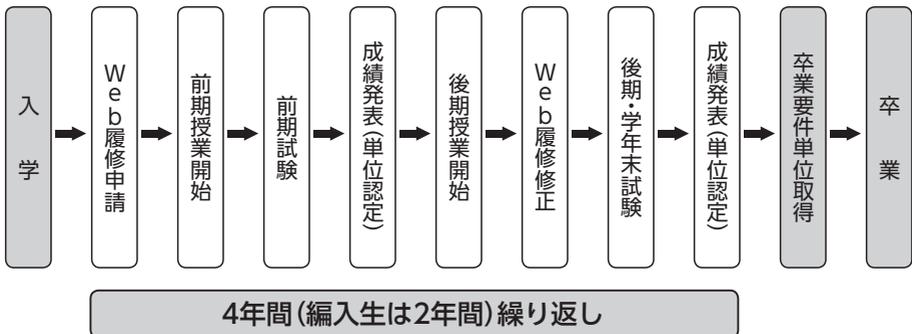
# 大学における入学から卒業まで

## ●一年間の流れ(学年暦概略)

※詳細月日は「学年暦」または「ポータルシステム」でご確認ください。

- 4月上旬   新入生・新編入生Web履修申請  
          前期授業開始
- 4月中旬   履修修正期間
- 5月中旬   履修登録確認表発行
- 7月下旬   前期授業終了  
          前期試験実施(～8月上旬)  
          追試験受付(～8月上旬)
- 8月上旬   夏期休業開始(～9月中旬まで)
- 8月下旬   追試験実施(申込み者で可否判定が可の者)
- 9月上旬   9月期卒業予定者成績発表
- 9月上旬   在学生前期成績発表
- 9月下旬   後期授業開始  
          在学生後期履修修正期間①  
          9月期学位授与式(9月期卒業式)
- 10月上旬   在学生後期履修修正期間②
- 10月中旬   履修登録確認表発行
- 12月下旬   年内授業終了、冬期休業開始(～翌年1月上旬まで)
- 1月上旬   後期授業再開
- 1月下旬   後期授業終了  
          後期・学年末試験実施  
          追試験受付
- 2月上旬   追試験実施(申込み者で可否判定が可の者)
- 2月下旬   卒業予定者成績発表(第1次)
- 3月上旬   卒業予定者成績発表(第2次)
- 3月中旬   在学生後期・学年末成績発表  
          学位授与式(卒業式)
- 3月下旬   新年度用在学生時間割等配布、ガイダンス、Web履修申請

## ●入学から卒業までの流れ



## 教務課案内

履修、時間割、授業などについての質問、相談を受け付けています。

場 所	本館(11号館) 1階(中央キャンパス)
受付時間	平 日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30  ※夏期期間中は10:00～16:00(土曜日はお休みです。) ※日曜・祝日(授業実施日を除く)、創立記念日、および夏期・冬期の一斉休業期間はお休みです。 ※受付時間内であっても、即日対応ができない場合があります。
連絡先	大阪産業大学 教務部 教務課  所在地 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1 電 話 072-875-3001(代表) E-mail kyomu-ml@cnt.osaka-sandai.ac.jp
業務内容	<p><b>各種申込・届出</b> 休学、退学、再入学、転科・学部変更試験 学籍に関する届け出 履歴事項変更に関する届け出(住所、氏名、連絡先の変更等)</p> <p><b>授 業 料</b> 授業料(延納、猶予)に関する手続き</p> <p><b>履修・時間割・授業</b> 履修申請、授業、授業の欠席、休講、補講、教室変更、シラバス</p> <p><b>試 験 ・ 成 績</b> 定期試験の実施、追試験の実施、成績発表</p> <p><b>各種証明書発行</b> 成績証明書、卒業見込証明書、在学証明書 等</p>

## 各種 届出・願出

### ■学籍に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
学生証再発行	窓口にて随時発行します。	教務課	6-7
住所異動届 ※	ポータルシステムから変更してください。		
氏名等変更届 ※	住民票または戸籍謄本が必要です。		
休学願 ※	詳細については窓口へ問い合わせてください。		29-31
退学願 ※			
復学願			
再入学願			

※奨学生の方は、学生課にも必ず連絡をしてください。

### ■通学・学割に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
実習用通学証明書	実習、卒業研究等で学外に通学する場合に使用します。(担当教員の申請用依頼文書が必要な場合があります。)	教務課	-
学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)	パピルスメイト(証明書自動発行機)にて発行しています。		8

### ■授業料に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
授業料(等)延納願	詳細については窓口へ問い合わせてください。	教務課	28-29
授業料(等)納入猶予願			
除籍取消願			
授業料(等)納入および除籍猶予願			

### ■授業に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
欠席届(学校認定活動用)	教職関連の欠席	教職教育センター	-
	課外活動に関する欠席	学生課	
欠席届(一般用)	傷病、親族の冠婚葬祭などによる欠席	教務課	20

注)欠席届の提出により成績や出欠への配慮がされるかどうかは各科目担当教員の判断となります。

※公共交通機関の遅延・連休に伴う遅刻・欠席については、欠席届は発行しません。当該交通機関発行の「遅延証明書(web画面の提示を含む)」を遅刻・欠席した科目の担当教員に提示してください。

### ■試験に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
試験用臨時学生証	試験期間中のみ発行できます。	教務課	21
追試験受験願	受付期間内に手続きしてください。		22

### ■単位認定に関すること

種別	備 考	窓 口	詳細ページ
既修得単位の認定	受付期間内に手続きしてください。	教務課	19

**学生証と学籍番号**

**学生証**

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。他人に貸与あるいは譲渡することはできません。  
定期試験の際や教職員から提示を求められたときなどに、いつでも提示できるように常に携帯し、紛失・破損等のないよう取扱いには十分注意してください。  
学生証の記載事項に変更があった場合は、直ちに教務課に届け出て訂正ならびに承認印を受けなければなりません。

(学生証・表面)



**学籍番号**

学籍番号は入学時に決定します。学籍番号は、入学した学科(学部)に在籍する限り変わることはありません。在学(在籍)期間のもとより、卒業後もそのまま残る固有の番号です。学内における事務処理は、すべてこの学籍番号によって行われますので、正確に覚えましょう。

学籍番号は6桁の数字とアルファベットで表示します。

(例)  $\frac{26}{\text{入学年度}}$   $\frac{B}{\text{学科コード}}$   $\frac{001}{\text{個人番号}}$

アルファベットは、学部・学科を表し、コードは下記のとおりで。

学 部	学 科	学科コード
国際学部	国際学科	P
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	T
経営学部	経営学科	B
	商学科(～2025)	C
経済学部	経済学科(2026～)	E
	経済学科・国際経済学科(～2025)	
情報デザイン学部(2025～)	情報システム学科(2025～)	H
建築・環境デザイン学部(2025～)	建築・環境デザイン学科(2025～)	M
システム工学部(2025～)	システム工学科(2025～)	S
デザイン工学部(～2024)	情報システム学科	H
	建築・環境デザイン学科	M
	環境理工学科	V
工学部(～2024)	機械工学科	F
	交通機械工学科	G
	都市創造工学科	K
	電気電子情報工学科	L

<p><b>学生証が必要なとき</b></p>	<p>○試験を受けるとき      ○授業で出席確認を行うとき      ○履修相談をするとき                  ○図書館を利用するとき      ○通学定期を購入するとき                  ○各種証明書をパピルスメイト(証明書自動発行機)で発行するとき                  ○公共交通機関の遅延、運休に伴い、授業を遅刻・欠席するとき</p>																																													
<p><b>有効期限</b></p>	<p>・入学後4年間(編入生は2年間)です。                  ・5回生以上に在籍する学生は、毎年度末に学生証の更新が必要になります。                  2月中旬以降に教務課で更新の申し込みをしてください。4月1日以降に旧学生証と引き換えます。なお、旧学生証を紛失している場合は有料(1,000円が必要)です。</p>																																													
<p><b>学生証の再発行 (紛失・破損)</b></p>	<p>・学生証を紛失・破損した場合は、教務課に届け出て再発行手続きを行ってください。                  再発行は有料(1,000円が必要)であり、身分証明書(運転免許証、パスポート等)の提示が必要です                  ・学生証を紛失した場合は、まず学生課で落とし物を確認し、見つからなければ、直ちに警察に届け出てください。</p>																																													
<p><b>学生証の返還</b></p>	<p>以下の場合は、学生証を速やかに教務課へ返還してください。                  1. 卒業、退学、除籍により学籍を離れたとき。                  2. 学生証の再交付を受けた後に旧学生証が見つかったとき。</p>																																													
<p><b>氏名の変更</b></p>	<p>本人および保証人(保護者等)の氏名を変更する場合は、速やかに「氏名変更届」と住民票または戸籍謄本の原本を併せて教務課まで届け出てください。</p>																																													
<p><b>住所等の変更</b></p>	<p>学生本人および保証人(保護者等)の携帯電話番号、自宅電話番号、住所をポータルシステムから変更できます。変更した場合、学生証裏シールの現住所の変更が必要となります。教務課学籍係で手続きを受けてください。</p>																																													
<p><b>学生証裏シールの更新</b></p>	<p>当該年度の在籍を証明する大切な証明書です。裏シールは通学定期購入の有無にかかわらず、全員年度ごとに更新が必要です。                  当該年度のシールを貼付していない学生証では、通学定期を購入できません。                  新年度の裏シールは、毎年3月中旬から教務課で交付しますので、忘れずに更新してください。</p> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">(学生証・裏面)</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">2026年度</td> <td style="width: 35%;">学籍番号</td> <td style="width: 50%;">氏名</td> </tr> <tr> <td>在籍確認</td> <td colspan="2">現住所</td> </tr> <tr> <td>通学区画</td> <td>間</td> <td>間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>～</td> <td>～</td> </tr> <tr> <td></td> <td>間</td> <td>間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>～</td> <td>～</td> </tr> <tr> <td>通学定期乗車券控</td> <td>発行年月日</td> <td>通用期間</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>発行駅</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>記事</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ヵ月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>卒業予定年月日</td> <td>2030年3月31日</td> <td>大阪産業大学</td> </tr> </table>	2026年度	学籍番号	氏名	在籍確認	現住所		通学区画	間	間		～	～		間	間		～	～	通学定期乗車券控	発行年月日	通用期間			発行駅			記事		ヵ月		卒業予定年月日	2030年3月31日	大阪産業大学												
2026年度	学籍番号	氏名																																												
在籍確認	現住所																																													
通学区画	間	間																																												
	～	～																																												
	間	間																																												
	～	～																																												
通学定期乗車券控	発行年月日	通用期間																																												
		発行駅																																												
		記事																																												
	ヵ月																																													
	ヵ月																																													
	ヵ月																																													
	ヵ月																																													
	ヵ月																																													
卒業予定年月日	2030年3月31日	大阪産業大学																																												

**通学・学割**

通学定期・学割証は正しく使いましょう。

※次の行為は、不正乗車として摘発されます。

- ・自分の定期券・学割証等を友人等に貸したとき
- ・有効期限切れの定期券・学割証を使用したとき
- ・記入事項（日付など）を書きかえたとき
- ・自宅および大学の最寄駅以外の区間で購入し使用したとき

※不正乗車を行った場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、本学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。

<p><b>通学定期</b></p>	<p>通学定期購入の際は、学生証の裏面にある通学区間（路線別）を記入し、教務課で承認印を受けてから、通学証明書として使用することができます。各交通機関の購入窓口に学生証を提示して購入してください。（交通機関によっては、別途通学証明書が必要となる場合があります。各交通機関に確認し、必要な場合は、教務課で承認印の押印を受けてください。）</p> <p>誤った申請内容で不正乗車を行なった場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、本学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。</p>
<p><b>通学区間</b></p>	<p>通学区間の証明は、現住所（学生証に記載されている住所）の最寄駅から、大学の最寄駅までの最短経路に限ります。</p> <p>※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。</p> <p>なお、通学以外の目的（アルバイト等）のために通学区間を承認することはできません。また、通学区間の変更や通学定期乗車券控の記入欄がなくなった場合は、教務課で裏面シールの追加発行と承認印を受けてください。</p>
<p><b>通学区間の変更</b></p>	<p>住所変更等で通学区間および路線に変更があった場合は、教務課に申し出て、承認印を受けてください。</p> <p>※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。</p>
<p><b>学校学生生徒旅客運賃割引証</b> ・ <b>使用上の注意</b></p>	<p>学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）とは、旅客鉄道株式会社（JR各社）が指定した学校の学生が旅客鉄道株式会社（JR各社）の営業キロで片道100キロメートルを超える区間を乗車する際に、運賃が割引になる制度です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学割証の有効期間は発行の日から3ヵ月です。</li> <li>・パピルスメイト（証明書自動発行機）で即日交付することができます。</li> </ul> <p>学割証を不正に使用した場合には、使用者は3倍の運賃を追徴され、以後の発行を停止されることがあります。また、本学の学割制度そのものを失い、他の学生に迷惑をかけることにもなりかねませんので、十分に注意してください。</p>

## 各種証明書

証明書は、パピルスメイト(証明書自動発行機)で発行するものと、教務課窓口で発行するものがあります。

パピルスメイト(証明書自動発行機)から発行可能な証明書等				
成績証明書	和文	300円	成績表(年間2通まで)	無料
	英文	1,000円	履修登録確認表(年間2通まで)	無料
卒業見込証明書 ※		200円	学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証) 注)P8参照	無料
成績・卒業見込証明書		500円	健康診断書(当該年度、健康診断受診者に限る)	200円
在学証明書	和文	200円	初期パスワード通知書	200円
	英文	1,000円	試験用臨時学生証(発行当日限り)	500円

※卒業見込証明書:当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。

次の条件に該当する場合は、4月1日から発行できます。

- ① 3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、既に卒業要件単位数を充足している。
- ② 3月末日において、3年以上在学(編入生は1年以上在学)し、新年度に向けて、卒業要件単位数を充足できる履修申請(クラス登録含む)が問題なく完了している。

注)履修修正期間中に、卒業要件単位数を充足できる履修修正を行った場合、翌日から発行が可能になります。

[注意事項]

1. 試験用臨時学生証は、使用后、教務課まで必ず返却してください。有効期限は発行当日限りです。
2. 間違いや余分に発行・購入した証明書等の返金は一切できません。
3. パピルスメイトに関する質問等は教務課までお申し出ください。
4. パピルスメイトのパスワードは、大学へ届けている保証人(保護者等)の自宅電話番号下4桁です。
5. 健康診断書の発行時期については、保健管理センターにお尋ねください。
6. 各種証明書について、所定の様式への記入には、発行まで数日かかる場合があります。

### 【パピルスメイト設置場所および稼働時間】

中央キャンパス: 本館(11号館) 1階ホール	月曜日～金曜日 土曜日	9:00～17:00 9:00～12:30
東キャンパス: 18号館 1階		
梅田サテライトキャンパス (大阪駅前第3ビル19階)		

注)夏期・冬期休暇中・春期は稼働時間を変更します。(掲示、ポータルシステム、梅田サテライトキャンパスのWebページ等でお知らせしますので確認してください。)

パピルスメイト  
(証明書自動発行機)



教務課窓口で発行する証明書等				
在籍証明書※	和文	200円	調査書(大学院受験用)	500円
	英文	1,000円	推薦書(学内推薦)	無料
通学証明書(学生証裏シール)		無料	単位修得見込証明書	300円

※休学中は、パピルスメイトから「在学証明書」が発行できません。

「在籍証明書」となりますので、教務課窓口にて申し込んでください。

また、発行に時間を要する場合があります。

★卒業後は、教務課窓口または「証明書オンライン申込システム」(その他の証明書は郵送)から証明書を申し込んでください。詳細は本学Webページをご確認ください。

## ポータルシステム(Portal-OSU)

修学に関する情報をまとめ、学生生活を支援するための総合案内システムです。

履修申請、シラバス照会、個人に応じたお知らせなど、様々な機能を使用することができます。

### 【重要】「Web履修申請ガイドブック」を入手してください。(配付：教務課)

(履修申請…受講したい講義(授業)科目を学年(学期)の初めに申請すること)

#### 主な機能

- ①お知らせ 教員および教務課、学生課などからの各種お知らせ
- ②時間割 履修している講義(授業)に関する情報  
(休講、補講、教室・教員変更、講義連絡 など)
- ③教務システム 履修、シラバス、時間割などの入り口  
(クラス登録、履修申請、履修登録確認表、成績表ダウンロード、シラバス照会 など)
- ④定期試験時間割 実施日の1週間前から掲載



#### ⑤WebClass(教育支援システム)



履修している講義(授業)教員とのコミュニケーションツール、教材・資料のダウンロード、課題・レポートの提出、テストの実施などの機能があります。

- ・ポータルシステム、Webサイト(情報科学センター)からもログイン可能
- (\*)ログイン方法は、下記ポータルシステムと共通
- ・履修申請後のWebClassへの反映は、翌日の1時限までに行います。

#### ⑥出席情報システム 出席状況を確認することが可能(16ページ参照)

#### ⑦メール通知設定 スマートフォンなどに、ポータルシステム上の新着通知をお知らせする機能 (本学発行のGmailアドレスが最初から登録済み)



メールアドレスは3つまで登録することが可能

- ・配信先状況が「本登録」になれば、受信することができます。
- ・ドメイン指定解除してください。【osaka-sandai.ac.jp】を設定してください。

#### ログイン

大阪産業大学 Webサイト (<https://www.osaka-sandai.ac.jp>)

Portal-OSU (Webサイト上部)

→ログイン画面へ

#### (\*) ログイン方法

【ユーザID】 s + 学籍番号(半角小文字)(例：99A999→ s99a999)

【パスワード】 パスワード通知書(ハガキ)に記載



## 産大モバイル

学生生活を支援するためのスマートフォンアプリです。

保護者の方は、ゲストモードでご利用いただけます。(一部機能に制限があります)

### 主な機能

- |                |  |   |
|----------------|--|---|
| ①時間割           | 履修している講義(授業)に関する情報<br>(休講、補講、教室・教員変更、講義連絡 など)<br>時限をタップして、メモを入力することが可能                             |  |
| ②出席システム        | 出席情報の送信 (16ページ参照)  |   |
| ③キャンパスマップ      | 各号館案内を確認することが可能  |   |
| ④時刻表           | シャトルバス、近鉄バスの時刻表  |   |
| ⑤PC演習室<br>開放状況 | 講義(授業)、自由利用(開放)のPC演習室に関する情報<br>本館(11号館)7階(中央キャンパス)0701演習室は、自由利用専用<br>(PC…パソコン [Personal Computer]) |   |

### ログイン

大阪産業大学情報科学センター Webサイト

(<https://www.osaka-sandai.ac.jp/campuslife/cnt/index.html#section001>)

産大モバイル(スマホアプリ)



産大モバイルサポートサイト

Google Play、App Storeからダウンロード可能



(\*)ログイン方法は、左記ポータルシステムと共通

注意)マニュアルをご確認の上、ご利用ください。

## Wi-Fi(無線LAN)

学内のほぼ全ての施設内にて、Wi-Fi(無線LAN)をご利用いただけます。

接続方法：右記QRコードを参照

(\*)ログイン方法は、左記ポータルシステムと共通

[LEONETWiFi-1x]：設定が完了している場合、次回以降は自動的にWi-Fi(無線LAN)に接続されます。



## 情報科学センター案内



情報処理教育を推進し、教育研究一般をICTで支援する部署です。  
 ICT：情報通信技術 (Information and Communication Technology)  
 場所：本館 (11号館) 5階 (中央キャンパス)  
 mail: center@cnt.osaka-sandai.ac.jp

### Microsoft Office 製品無償利用

在籍中は、Microsoft Officeを無償で利用することができます。  
 (Windows/Mac PC・タブレット・スマートフォン複数台に、インストール可能)



## 保護者ポータルサイト

学生と同様に、保護者の方々もポータルシステム「保護者ポータルサイト」を利用することができます。

保護者ポータルサイトには以下のような機能があり、学生の時間割や成績表、出席状況等を確認することができます。保護者の方々から出席や成績について尋ねられたら、保護者ポータルサイトを閲覧するよう案内してください。



### お知らせ、個人伝言

大学および後援会から最新の話題や情報等を提供する掲示板です。

### 時間割

履修している時間割を閲覧することができます。

### 成績表ダウンロード

成績表をダウンロードすることができます。なお、成績登録期間中はダウンロードできません。

### 出席状況確認表ダウンロード

前日までの出席状況確認表 (当該学期) をダウンロードすることができます。

### 出席状況照会

前日までの出席状況 (出席回数・出席率) を科目ごとに確認することができます。

### メール通知設定

大学および後援会からのお知らせ等の通知メールアドレスを登録することができます。

## 学期と授業時間

試験時間は授業時間と異なるので注意してください。(授業時間中に行われる試験は除く)

学期	前期と後期の2期に分かれています。		
	前期	後期	
	4月1日～9月20日	9月21日～3月31日	
授業時間	時限	時間	※各時限は90分授業 (= 1 コマ)
	1時限	9:00～10:30	
	2時限	10:40～12:10	
	3時限	12:50～14:20	
	4時限	14:30～16:00	
	5時限	16:10～17:40	
	6時限	17:50～19:20	
※授業は1時限～6時限、月～土曜日まであります。			

## 履修申請

履修申請とは、当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。

各自の学修計画に基づき、Web履修申請システムにて4月(在学生は3月)に、当該年度に必要な科目を全て登録します。なお、前期は4月中旬、後期は9月下旬にそれぞれ修正期間を設けていますので、既決履修講義およびクラス登録科目を除く科目の修正が可能です。

所定の期間内に履修申請を行わなかったり、間違った履修申請を行うと、授業に出て試験を受けても、単位は修得できません。

履修申請は、パソコンからポータルシステムにログインして行います。操作(申請)方法は『Web履修申請ガイドブック』に掲載されています。

※履修と修得について

「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶことです。

「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

## ■履修申請手順

1. 必要な情報  
(モノ)を  
そろえる

履修申請をする前に、下の(1)～(5)の資料をそろえてください。  
新入生は4月上旬、在学生は3月下旬に配布します。Webでも確認できます。

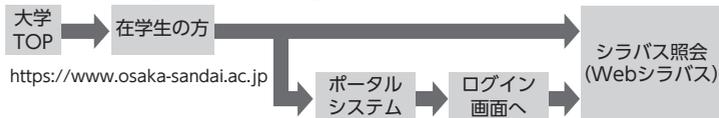
(1)カリキュラム表 ハンドブック(この冊子)に掲載されています。

(2)講義時間割 ポータルシステム ➡ 履修申請支援Menuに掲載されています。

(3)Webシラバス

シラバスとは、講義(授業)の計画や、講義内容(概要)を記したものです。  
講義(授業)の詳細な内容・履修条件や成績評価基準等も掲載されているので  
次の検索方法で確認しましょう。

【Webシラバス(授業計画書)検索方法】



(4)成績表

修得した科目や単位、卒業に必要な科目や単位を確認するために必要です。

(5)『Web履修申請ガイドブック』

Web履修申請の申請スケジュール、操作マニュアル等が掲載されています。

2. 履修計画  
を立てる

前項1.でそろえた必要な情報を基に、『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」も確認し、履修計画を実際に、「履修申請下書き用紙」に記入していきます。

【履修計画における注意点】

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス(授業計画書)」を読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から、自分が学びたい科目を選び、各自で履修申請してください。学生一人一人の時間割の内容は、同じ学部学科であっても違ったものになります。
- ③卒業要件単位数を充足することに重点をおいて時間割を組んでください。
- ④学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの(既決履修講義)、抽選により履修者を決定するもの、プレイメントテストの結果により履修指定がされているものなど、さまざまなタイプがあります。『講義時間割の備考欄』などに記載されている履修条件をよく確認してください。
- ⑤既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。

3. 履修申請  
の手続き  
を行う

(1)クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果当選した場合に限り履修できます。なお、当選した講義(クラス)は履修を取り消すことができません。詳細は『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

3.履修申請  
の手続き  
を行う  
(つづき)

**重要** クラス登録応募について

履修人数を制限している科目(『講義時間割』の科目名左側に「●」「○」「◎」印のある科目)の受講を希望する場合は、クラス登録期間に応募してください。  
 クラス登録応募は、Webで「受付→抽選・履修クラスの決定→結果発表」という手順で行います。ただし、科目によっては、応募者多数の場合、受講できない(抽選にはずれる)ことがあります。  
 詳細は『Web履修申請ガイドブック』の「クラス登録」を参照してください。

■クラス登録タイプについて

Ⅰ	登録保証型 (講義時間割●印科目)	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。応募すれば必ず当選します。
Ⅱ	曜日時限指定抽選型 (講義時間割○印科目)	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。希望の曜日時限すべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。(曜日時限に希望順位をつけられます。)
Ⅲ	クラス指定抽選型 (講義時間割◎印科目)	科目と曜日時限、クラス(教員名)を指定して応募します。希望のクラスすべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。(クラスに希望順位をつけられます。)

抽選結果、当選クラス(教員名)につきましては、本申請までにWeb上で発表します。

クラス登録科目につきましては、抽選・登録の結果、決定したクラスを原則取り消すことはできません。

(2)本申請

履修計画(下書きした時間割)に基づいて、Web履修申請システムで講義を申請してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。(時間割は学生ごとに異なります。)事前にクラス登録の抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内ならば何度でも申請内容を変更することができます。申請が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

(3)修正

申請した講義を修正(追加、削除)することができます。ただし、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取り消しできません。修正が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

履修登録  
確認表

Web履修申請期間終了後に、履修確定内容を確認するためのものです。  
 (5月中旬、10月中旬発行)  
 履修登録確認表にて、申請した科目と相違がないかを必ず確認してください。  
 記載のない科目を受講し試験を受けても単位は認定されません。  
 ≪「履修登録確認表」はポータルシステムの教務システム(履修・シラバス)にアクセスし、入手・印刷してください。  
 またはパピルスメイトでも年2回無料で発行することができます。≫

教科書販売  
について

前期・通年科目は毎年3月下旬から4月中旬にかけて、後期科目は9月中旬から10月上旬にかけて教科書を販売します。  
 購入方法等の詳細は、別途配布・配信される「教科書販売のご案内」および、以下の本学Webページを確認してください。  
 ※MyKiTS(Web申込み)からのみ購入可能です。  
 Webサイトトップページ>MENU>在学生の方>Web履修申請支援メニュー>教科書販売

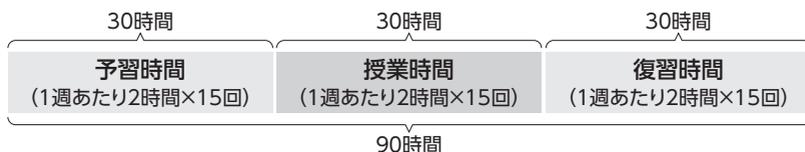
## 単位を修得するための学修時間

大学における授業の学修量を「単位」と表し、履修登録した授業に出席し、試験（筆記、レポート、実技等）に合格することで単位が与えられます。これを積み重ねて必要な単位を満たすことで卒業ができます。

単位の算定は、大学設置基準により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、各大学において定めるとされています。

これを本学の多くの科目が該当する「半期で15回にわたり開講される2単位の講義科目」に当てはめると、大学での授業は30時間（＝2時間（注）×15回）開講されていることから、90時間（＝45時間×2単位）から30時間を引いた残りの60時間は予習と復習を行う必要があることとなります。下の図は、予習と復習をそれぞれ30時間ずつ実施した場合の例となりますが、この例に基づけば、こうした科目においては、毎週、予習を2時間、復習を2時間行う必要があることを意味します。

（注）本学では、1時限90分の授業時間を2時間とみなして計算しています。

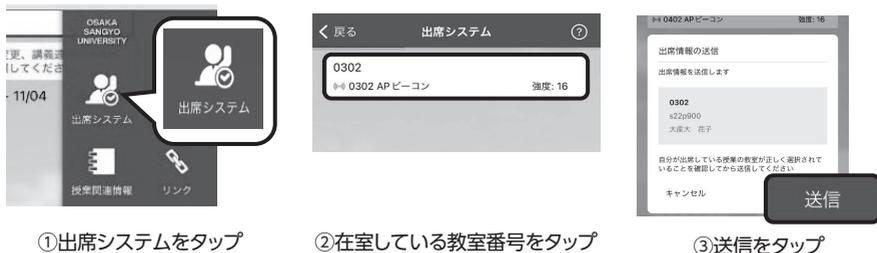


大学の授業内容は、単に授業に出席さえすれば授業内容がすべて理解できるようなものではありません。単位を修得するためには、授業だけでなく、各自で授業外に準備学修等（事前・事後学修）を行う必要があります。各授業科目の準備学修等（事前・事後学修）の具体的な内容とそれに必要な時間はシラバスに記載されています。主体的な学修の仕方を身につけ、学修に励んでください。

## 出席情報システム

本学では『学生の自己管理支援』を目的とし、産大モバイル（スマホアプリ）内の「出席システム」と教室内設置のBeaconにより出席情報を収集する「出席情報システム」を導入しています。学生の皆様が授業実施時間内に「出席情報の送信」を行うことで、送信時間により「出席」「遅刻」「欠席」の自動判定（詳細は下記QRを参照）を行います。なお、本システムの出席判定はあくまでもシステム上の判定であるため、授業における出席情報の取り扱いについては、シラバスまたは各授業担当教員に確認してください。

### 【送信方法】



①出席システムをタップ

②在室している教室番号をタップ

③送信をタップ

※出席情報システムに関する大切な情報（Beacon設置教室、出席状況の確認方法、注意点等）は、右記QRコードよりご確認ください。

※本システムに関するご質問は、教務課へお問い合わせください。

詳細はこちら▶



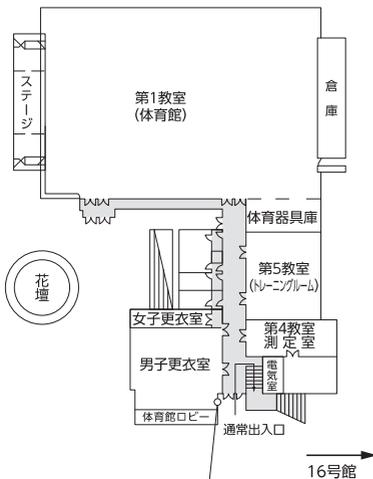
## 身体科学科目について

### 受講時の注意

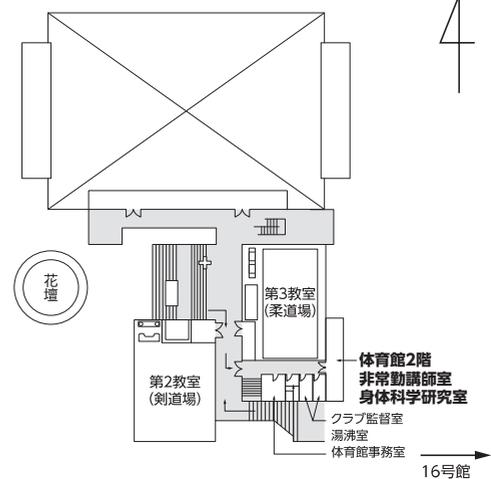
- ・身体科学科目の第1回目の授業はガイダンスです。授業について大切な説明があります。ガイダンスの集合場所は講義時間割表・ポータルシステム・WebClass 等で確認をしてください。
- ・4回以上欠席した場合は単位を修得することができません。
- ・遅刻3回は1欠席とみなします。
- ・授業の欠席/休講については大学の規則に則ります。
- ・スポーツに適した運動着、トレーニングウェアおよびシューズを着用してください。
- ・担当教員からの授業連絡はポータルシステム・WebClass より配信がありますので、動作確認に慣れておくこと。
- ・身体科学科目で質問等があれば、担当教員または総合体育館2階体育館非常勤講師室/身体科学研究室まで。

### 総合体育館見取図

#### 1階



#### 2階



体育館掲示板(ホワイトボード)は通常出入口の横にあります。  
 担当教員からの連絡・教室変更等はポータルシステム・WebClass より配信があります。  
 分からないことがあれば、担当教員へ連絡または体育館2階非常勤講師室/身体科学研究室まで来てください。

**授業（休講・補講・欠席 等）**

**休講**

◎担当教員の都合による休講

担当教員の都合により授業ができない場合はポータルシステムで案内します。  
体調不良等やむを得ない事情により授業開始直前の連絡となる場合もあります。

◎気象警報および交通機関運行停止による休講

①気象警報、土砂災害警戒情報による休講

基準時刻において次の1)～2)のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行いません。警報が解除された場合は、次のとおり授業や試験を行います。

- 1) 大阪府下のいずれかの地域または兵庫県(阪神地域)に「暴風警報」、「暴風雪警報」、「特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪)」が発令されたとき。
- 2) 大東市に土砂災害警戒情報レベル4以上が発令されたとき。

基準時刻	対象の警報等が…	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
午前6時30分	解除された	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施
	発令中	休講	休講	午前10時判断		午後3時判断	
午前10時	解除された	午前6時30分判断	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施	
	発令中	午前6時30分判断	休講	休講	休講	午後3時判断	
午後3時	解除された	午前6時30分判断	午前10時判断			授業実施	
	発令中	午前6時30分判断	午前10時判断			休講	

※ 1)、2)の警報が授業や試験中に発令された場合、授業や試験を中止して休講とすることがあります。

②交通機関の運行停止による休講

基準時刻において次の3)～4)のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行いません。交通機関が運行を再開した場合は、次のとおり授業や試験を行います。

- 3) 西日本旅客鉄道(JR西日本)「片町線」(学研都市線／京橋～松井山手間)の一部または全部が発令から継続して運行を停止しているとき。
- 4) 大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)「中央線」・近畿日本鉄道「けいはんな線」(本町～生駒間)および近畿日本鉄道「奈良線」の2交通機関が同時に始発から継続して運行を停止しているとき。

基準時刻	対象の交通機関が…	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
午前6時30分	運行を再開	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施
	始発から継続して運行を停止	休講	休講	午前10時判断		午後3時判断	
午前10時	運行を再開	休講	休講	授業実施	授業実施	授業実施	授業実施
	始発から継続して運行を停止	休講	休講	休講	休講	休講	午後3時判断
午後3時	運行を再開	休講	休講	休講	休講	休講	授業実施
	始発から継続して運行を停止	休講	休講	休講	休講	休講	休講

③その他の事態による休講

特別の事態が発生するおそれがあるとき、または授業や試験中に発生したとき、授業や試験を中止して休講とすることがあります。

◎自然休講

授業開始後30分経過して担当教員が来室しないときは「自然休講」になります。  
自然休講も補講対象となります。

**補講**

休講した授業については、別途補講授業を行います。  
補講日については、ポータルシステムにてお知らせします。

<p><b>レポート</b></p>	<p>授業担当教員から、レポートを提出するよう指示があった場合は、次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科、科目名、教員名、学籍番号、氏名を明記した表紙をつけてください。</li> <li>・2枚以上の場合は、ホッチキス等で綴じてください。</li> <li>・教員から指示があった場合はそれに従ってください。</li> <li>・授業担当教員から「レポートBOXに投入」する旨の指示があった場合は、指定されたレポートBOXに入れてください。(BOXは14号館1階および各学部・学科事務室にあります。)</li> <li>・提出後の訂正や追加は認められません。</li> <li>・提出締切日を過ぎると一切受け付けることができません。</li> <li>・定期試験の代わりにレポートを課す授業もあります。授業に出席して情報を得るようにしてください。</li> </ul> <p>(表紙記入例)</p> <table border="1" data-bbox="717 213 997 469"> <tr> <td>学科名</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>科目名</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>担当教員</td> <td>○○○○先生</td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>学籍番号</td> <td>○○○○○○</td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td>○○○○</td> </tr> </table>	学科名	○○○○	科目名	○○○○	担当教員	○○○○先生	レポート課題	○○○○	学籍番号	○○○○○○	氏名	○○○○
学科名	○○○○												
科目名	○○○○												
担当教員	○○○○先生												
レポート課題	○○○○												
学籍番号	○○○○○○												
氏名	○○○○												
<p><b>講義時間割</b></p>	<p>講義時間割は毎年作成されます。</p> <p>年度によりカリキュラム表と異なる学期(前期・後期)で開講される場合や、開講されない場合がありますので、履修申請をする際には講義時間割表および時間割修正情報を確認するようにしてください。</p> <p>※講義時間割および時間割修正情報は、Web履修申請支援メニュー&gt;講義時間割および時間割修正情報、もしくはポータルシステム&gt;教室・教員変更照会よりご確認ください。</p>												
<p><b>集中講義</b></p>	<p>各授業科目の講義は通常、前期・後期・通年の授業形態で行われます。しかし、授業科目担当者を学外から招く等の理由で、長期休暇期間等を利用して行う集中講義があります。日程についてはポータルシステム・WebClassでお知らせします。</p>												
<p><b>海外研修</b></p>	<p>言語文化科目分野の単位が修得できる海外研修科目があります。参加希望者は3月下旬に実施される語学研修ガイダンスに参加してください。なお、海外研修に参加する場合は、履修申請期間に必ず登録してください。詳しくは学生課にご相談ください。</p>												
<p><b>既修得単位の認定</b></p>	<p>入学前の既修得単位の認定とは、本学に入学する前に他の大学・短期大学において修得した単位、あるいは高等専門学校・その他文部科学大臣が別に定める教育機関(専修学校等)での学修について、最大60単位まで本学で修得した単位として認める制度です。認定を希望する場合は、下記の内容で取り扱います。受付期間を過ぎてからの申請は認められませんので注意してください。</p> <p>専門学校の場合は、修了時に「専門士」の資格を修得していることが条件です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①受付期間……2026年4月1日(水)～2026年4月8日(水)</li> <li>②受付場所……教務課窓口</li> <li>③必要書類……1)当該学校が発行する成績証明書または単位修得証明書 (各科目の単位数および配当時間数が記載されていること) 2)当該学校の学生便覧、シラバス等(カリキュラムがわかるもの)</li> </ol>												

授業の欠席



<「欠席届(一般用)」の手続きの流れ>

●発行対象は、原則P22(国際学科・スポーツ健康学科はP21)の追試験(受験該当者イ)とホ)に準じるものとします。

- ①欠席した期間が明記された公的な証明書(疾病に関する場合は診断書、親族の葬儀の場合は日時や場所が分かる会葬礼状など)を持って教務課にお越しください。
- ②「欠席届(一般用)」を記入してください。
- ③教務課受付後、欠席した科目の担当教員に、「欠席届(一般用)」を提示してください。
- ④提示終了後に「欠席届(一般用)」を教務課に返却してください。

原則として教務課では、授業欠席の電話連絡は受け付けていません。後日、教務課にお越しいただき、手続きをしてください。ただし、感染症のおそれ、事件・事故等があったときは、教務課または学生課まで電話連絡してください。

学校認定活動に伴う欠席届(P5)の手続きについては、申請窓口の指示に従ってください。就職活動で授業を欠席する場合、欠席届の発行は行っていません。

注意事項

- ①授業には必ず出席するよう心がけてください。遅刻や早退もしないようにしてください。
- ②授業中の私語は控えてください。授業の妨げにならないようにしてください。
- ③授業中に教員の指示なくスマートフォン等の電子機器を使用(板書等の撮影を含む)しないでください。ただし、出席情報の送信、診断書等により特別に許可された者は除く。

定期試験

授業科目の履修状況进行评估し、単位を認定するために試験が行われます。

授業科目によっては定期試験期間以外に試験を実施する場合もあります。授業期間内に試験が行なわれる授業、レポートを提出しなければならない授業、授業中に課題を与えられる授業などがあるので、評価方法に留意してください。日頃の出席状況、受講態度なども評価の基準になります。さらに、単位認定にあたり、出席を前提としている科目もありますので注意してください。

詳細は、Webシラバスにて確認してください。

定期試験を受けるためには

履修申請が必要です。「履修登録確認表」(P15参照)で登録が確認された授業科目以外の試験を受けることはできません。また、授業料(等)を納入していなければなりません。

試験時間

■試験期間

前期試験 (7月下旬～8月上旬)	前期終了科目・ 通年科目(中間試験)
後期試験・学年末試験 (1月下旬)	後期終了科目・ 通年科目

※通年科目の前期試験は中間試験として行います。

■試験時間

1時限	9:20～10:40
2時限	11:00～12:20
3時限	13:00～14:20
4時限	14:40～16:00
5時限	16:20～17:40
6時限	18:00～19:20

※通常試験時間は80分ですが、科目によっては60分の場合もあります。

試験時間割照会手順

- ①ポータルシステムにログインし、左メニュー「定期試験時間割照会」を選択
- ②「定期試験時間割情報」タブを選択
- ③履修申請科目のうち定期試験が実施される科目の一覧が表示されます



※詳細は「Web履修申請ガイドブック」の定期試験時間割照会ページを確認してください

定期試験に関する注意事項

- 授業時間割と異なる曜日・時限で試験を実施する場合があります。
- 他曜日・他時限のクラスと合同で試験を実施する場合があります。
- 受験者数の関係で、教室を分けて試験を実施する場合があります。
- 試験時間割発表後にも実施日・教室等が変更される可能性があります。
- 旧カリキュラム適用の学生で科目の読み替えのある学生は、Webシラバス（授業計画書）を参照の上、試験科目・試験日時を確認してください。
- 自由科目や乗り入れ等で他学部他学科の科目を履修している学生は、その科目が本来開講されている学部・学科の試験時間割を確認の上、受験してください。
  - ・ 試験場では、学生証を通路側の机の上に置いてください（学生証のない者は受験できません）。
  - ・ 学生証を忘れたときは、本館1階教務課前のパピルスメイトにて「試験用臨時学生証」を発行後、試験会場に入室してください。「試験用臨時学生証」の発行手数料は500円です。「試験用臨時学生証」は当日のみ有効とし、当日の試験終了後直ちに教務課に返却してください。
- 試験開始後30分以上遅刻した者は受験できません。
- 試験中に不正行為を行った者には退場を命じ、以下の通り処分します。
  - 注意義務に抵触する行為を行った者…当該科目の試験を無効とします。（監督者の指示にしたがわない者、受験態度が悪い者など。）
  - 不正行為を行った者……当該試験期間中の試験をすべて無効とします。

修学規程	<p>単位認定に係わる試験（以下「試験」という。）を受験しようとする者は、試験場において、次の各号に定める事項（以下「注意義務」という。）を守らなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 試験場においては、監督者の指示にしたがわなければならない。</li> <li>(2) 試験開始後30分以上遅刻した者は試験場に入ることができない。</li> <li>(3) 受験の際は、学生証を机の上に置かなければならない。学生証を所持しない者は受験することができない。</li> <li>(4) 答案用紙には、学籍番号および氏名をペンまたはボールペンで明記し、監督者に学生証との照合を受けなければならない。</li> <li>(5) 特に許可されたものを除き、すべて携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。</li> <li>(6) 配布を受けた答案用紙およびその他の用紙類はすべて、監督者が指定する場所に提出し、試験場外に持ち出してはならない。</li> </ol>
------	---

修学規程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験に際して、次の各号のいずれかの行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証および答案を取り上げて退場を命じる。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前条の注意義務に抵触する行為</li> <li>(2) 許可されたもの以外を見ること</li> <li>(3) 他人の不正行為を助けること</li> <li>(4) 不正行為を目的とするものを保持すること</li> <li>(5) 不正行為に係わる物的証拠を故意に隠蔽すること</li> <li>(6) その他不正行為とみなされること</li> </ol> </li> <li>2. 不正行為を行った者に対しては、次の各号にしたがって処分を行う。                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前項1号の不正行為を行った者は、当該科目の試験を無効とする。</li> <li>(2) 前項2号から6号の不正行為を行った者は、当該試験期間中の試験を無効とする。</li> <li>(3) 不正行為を繰り返すなど特に悪質な者に対しては、学則第48条に基づいて懲戒処分とする。</li> </ol> </li> </ol>
------	--

## 追試験

追試験は、以下のイ)～ホ)の理由で定期試験を受けることができなかった場合に申し込むことができます。通年科目の中間試験に追試験はありません。

追試験は90点満点です。試験時間、試験場での注意、不正行為者の処分等については、定期試験と同様に扱われます。

### 受験該当者

- イ) 傷病等による公的な診断書<sup>\*1</sup>がある者。  
 ※1 受験日以外に欠席を要する場合は、その欠席期間も安静を要することが判らなければ、原則として追試験の受験は認められません。
- ロ) 採否に関わる就職活動の証明<sup>\*2</sup>がある者。  
 ※2 以下の手順に従ってください。  
 ①「就職活動証明書(対面用・オンライン用)」を事前にキャリアセンターで受け取り、必要事項を記入する。  
 ②対面用は、訪問企業で参加証明を記入してもらう。  
 ③キャリアセンターで受付・確認印をもらう。  
 ④教務課へ提出。
- ハ) クラブ活動における関西(近畿)大会以上の公式試合、並びに大会に参加するため予め許可を得た者。(大会期間+往復日数)
- 二) 各時限において、交通機関の遅延により受験できなかった者で、30分以上の遅延が証明できる(Web遅延証明書、または公の証明書に発生年月日、時間帯が明記され、代表者の印のあるものに限る。)場合、原則として発生した当日に教務課窓口に出、申請事項と相違ないと認められた者。
- ホ) 定期試験期間中に次の事項で休んだ場合、それを証明する書類がある者。  
 ・父母、配偶者(それに準ずる者を含む)または子が死亡したとき(7日+往復日数)  
 ・祖父母または兄弟姉妹が死亡したとき(2日+往復日数)  
 ・上記の親族における1周忌までの法要を行うとき、または上記以外の親族が死亡したとき(1日+往復日数)  
 ・交通事故で被害者の場合は、事故が発生したその日から追試験を受験できる日まで。

※その他特別な理由のある者は、別に審議します。

### 申し込み方法

追試験を受験するためには、「追試験受験願」に必要な事項を記入し、決められた申し込み期間内(別途教務課Webページに記載)に、受験料(1,000円/1科目)を添えて申し込んでください。ただし、就職試験、交通機関の遅延および裁判員としての職務従事のために定期試験を受験できない場合は、受験料は必要ありません。追試験受験可否については、教授会において審議し決定します。その結果は、ポータルシステムからお知らせ配信で発表します。メール通知設定の登録を必ずしてください。

## 成績

正しく履修登録された科目について、所定の試験を受けた結果、成績が「S」「A」「B」「C」に評価された場合に単位修得となります。

成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準(点数)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点～90点以上</td> <td>S(秀)</td> </tr> <tr> <td>90点未満～80点以上</td> <td>A(優)</td> </tr> <tr> <td>80点未満～70点以上</td> <td>B(良)</td> </tr> <tr> <td>70点未満～60点以上</td> <td>C(可)</td> </tr> <tr> <td>60点未満</td> <td>D(不可)</td> </tr> <tr> <td>成績評価に至らない</td> <td>*</td> </tr> </tbody> </table>		基準(点数)	評価	100点～90点以上	S(秀)	90点未満～80点以上	A(優)	80点未満～70点以上	B(良)	70点未満～60点以上	C(可)	60点未満	D(不可)	成績評価に至らない	*
	基準(点数)	評価														
	100点～90点以上	S(秀)														
	90点未満～80点以上	A(優)														
	80点未満～70点以上	B(良)														
	70点未満～60点以上	C(可)														
	60点未満	D(不可)														
成績評価に至らない	*															
<p>注1) *(アスタリスク)の基準 一度も授業に出席していない、かつ一度も成績評価物を提出していない、かつ一度も試験・テストを受験していない場合は*(アスタリスク)となります。</p>																
<p>注2) T(認定)について 教授会で認められた場合は、60単位を超えない範囲で本学での単位として認定します。(P19参照) 1)入学前および入学後における他の大学・短期大学で修得した単位。 2)短期大学・高等専門学校における学修や、文部科学大臣が別に定める学修。 3)インターンシップなどの単位認定科目。(詳細は学科により異なります)</p>																
(評価分布)	<p>科目ごとの成績評価の分布を公表しています。 [WebClass]にログイン→「成績評価分布一覧(学生公表用)」にアクセス</p>															
成績発表	<p>「履修登録確認表」で登録が確認された科目以外は、単位を修得することができません。パピルスメイト(証明書自動発行機)で年間2通まで成績表を発行することができます。≪ポータルシステム①教務システム(履修・シラバス)にアクセスし、成績表で確認してください。≫ 通年科目の中間試験・通年集中講義については、前期成績発表はありません。成績発表(交付)日程は当該年度の学年暦を参照してください。</p>															
成績 問い合わせ	<p>発表された成績について調査を依頼する(納得できない)場合には、教務課で所定の様式により手続きをしてください。 成績発表開始日以降の所定期間に問い合わせることができます。ただし、卒業予定者については、成績発表開始日より所定期間まで問い合わせに応じます。(詳細日程は教務課Webページよりお知らせします。) なお、問い合わせの根拠(納得できない)理由は、シラバスの「成績評価基準・方法」欄および「成績評価[*]」(成績評価に至らない)の基準欄を参考にして客観的な事実のみを拠りどころとして記述してください。私情を交えた嘆願的文書は受け付けません。また、電話・メールによる受け付けはできません。</p>															
平均点 算出方法	<p>平均点は成績評価に基づき、次の式により算出します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点数</td> <td>97</td> <td>85</td> <td>75</td> <td>63</td> </tr> </tbody> </table> <p>平均点 = <math display="block">\frac{(S \text{ の数} \times 97) + (A \text{ の数} \times 85) + (B \text{ の数} \times 75) + (C \text{ の数} \times 63)}{S \text{ の数} + A \text{ の数} + B \text{ の数} + C \text{ の数}}</math></p>	評価	S	A	B	C	点数	97	85	75	63					
評価	S	A	B	C												
点数	97	85	75	63												

成績表の見方

(ASD010R01)

PAGE: 1 / 1

成績表

○学部  
○学科 ○コース

学籍番号 99X999

サンダイ クロウ

氏名 産大 太郎

表A

20XX年 4月 1日 入学

科 目 名	単位	評価	科 目 名	単位	評価
【総合教育科目】 教養教育科目) 教養力基礎演習 (人文科学)	選択2	B			
論理学	選択2	A			
心理学	選択2	C			
社会思想史 (社会科学)	選択2	C			
日本国憲法	選択2	B			
経済学の基礎	選択2	B			
近代史	選択2	S			
地理学	選択2	A			
(学際領域) 外国の社会と文化	選択2	C			
倫理学(工業倫理を含む。) (言語文化科目)	選択2	C			
(英語)					
英語(Listening&Speaking)1	選択1	S			
英語(Listening&Speaking)2	選択1	C			
英語(Reading&Writing)1	選択1	C			
英語(Reading&Writing)2	選択1	B			
(初修外国語)					
ドイツ語入門1	選択1	C			
ドイツ語入門2	選択1	C			
フランス語入門1	選択1	C			
中国語入門1	選択1	C			
(身体科学科目)					
スポーツ科学	選択2	B			
【専門教育科目】 (専門基礎科目) 基礎数学および演習	選択2	A			
基礎物理学	選択2	C			
解析学1	必修2	B			
解析学2	必修2	C			
代数学1	必修2	S			
代数学2	必修2	A			
工業数学	必修2	C			
工業数学演習	必修2	B			
物理学2	必修2	B			
化学	必修2	C			
工業学1	必修2	C			
材料学1	必修2	B			
材料力学演習	必修2	B			
材料力学2	選択2	C			
機械動力学	必修2	C			
機械製作法	必修2	B			
図形科学	選択2	C			
機械製図	必修2	C			
機械設計学1	必修2	C			
CAD演習	選択1	C			
材料工学1	必修2	C			
流体工学1	必修2	B			
流体工学演習	必修2	B			
熱工学1	必修2	C			
熱工学演習	必修2	C			
電気工学1	必修2	B			
電気工学2	選択2	C			
情報基礎演習	必修2	B			
外国語講読	必修2	A			
交通機械基礎実習	必修2	B			
交通機械実習-実習1 (専門応用科目)	必修2	C			
自動車構造論1	必修2	B			
自動車構造論2	必修2	C			
自動車性能論	必修2	B			
自動車燃焼論	必修2	B			
自動車駆動論	必修2	A			
自動車整備工学	必修2	C			
自動車駆動工学1	必修2	C			
自動車二輪工学	選択2	B			
トランスミッター	選択2	C			
福祉機械	選択2	C			
交通機械デザイン論	選択2	B			
自動車工学実習1	必修4	C			
自動車工学実習2	必修4	C			
自動車工学実習3	必修2	C			
交通機械実験-実習2	必修2	B			
(セミナー-卒業研究)					
セミナー	必修2	A			
— 以下余白 —					

科 目 区 分	卒業 要件単位数	修得卒業 単位数	総単 位数
教養教育	—	—	18
言語文化 (4以上)	8以上	8	8
(内 英語)	—	—	(4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
(内 自由科目)	(0~4)	—	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

卒業要件外教職科目	修得単位数
教科に関する科目 / 教職又は教職に関する科目	0
教職に関する科目	0

20XX年度 GPA	累積 GPA
1.684	1.491

20XX年度 GPA順位	累積 GPA順位
/999	/999

卒業要件の算入対象  
ではない科目  
(教職課程の科目)の  
集計欄

評価欄:  
左寄り:前年度までに単位修  
得済の科目の評価  
右寄り:今年度に履修した科  
目の評価

単位欄:  
科目の属性と単位数  
(科目の属性)  
必修…必修科目  
選択…選択必修科目  
選択…選択科目  
指必…コース指定必修科目  
指必…指定選択必修科目

科目名欄:  
前年度までに単位修得済の科目  
および今年度履修した科目

- (注)
1. 進級判定時の順位を表示
  2. 休学履歴がある場合または休業年限を  
超える場合は順位を非表示

<成績評価>  
S (秀): 100~90点 T : 認定  
A (優): 89~80点 D (不合格): 59点以下  
B (良): 79~70点 \* : 未受験科目  
C (可): 69~60点

表B

発表時		次年度	
履修年次	卒業資格	履修年次	卒業
4年次	有	有	卒業
履修制限(指定先行科目)		発表時	次年度
申請制限単位数	50		

20XX年 9月 19日  
大阪産業大学 教務課

表④について

科 目 区 分	①	②	③
	卒業要件単位数	取得卒業要件単位数	取得単位数
教養教育	—	—	18
言語文化 (伊・英語)	8以上 (4以上)	8	8 (4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択 (内 自由科目)	14以上 (0~4)	14	20 (0)
専門教育(小計)	—	92以上	85 91
合計	124	117	119

①卒業要件単位数

卒業に必要な単位数

②修得卒業要件単位数

修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数

修得卒業要件単位数の要件を充足しているかを判断します。科目区分毎の要件を超えて表示されることはありません。

③修得総単位数

修得している全ての単位数(卒業要件としてカウントされていない単位数を含む)

④科目区分

学部学科が定めた要件区分名を示します。

表⑧について

⑥表時		⑦		⑤ 次年度	
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次		
4年次	有	有	卒業		
⑧履修制限(指定先行科目)			発表時	次年度	
申請制限単位数			48		

⑤履修年次/セメ

2年次/3セメ	2年次に進級
3年次/5セメ	3年次に進級
4年次/7セメ	4年次に進級
卒業	卒業見込
卒1	卒業確定
4留/8セメ	卒業延期
9月卒	9月卒業確定

⑦卒研資格(3年次/6セメ以上)

有	無	既有	済
卒業研究履修可	卒業研究履修不可	卒業研究履修可 (前年度より)	卒業研究単位修得済

※各学科により資格が異なりますので、Chapter02で確認ください。

⑥卒見証発行(3年次/6セメ以上)

有	無
卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可

卒業見込証明書とは、当該年度に卒業が可能で有ることを証明するもので、就職活動等に必要です。

【発行条件】

- ①既に卒業要件単位数を充足していること。
- ②卒業要件単位を充足できる履修申請が完了していること。
- ③3年(編入生は1年)以上在学していること。

⑧履修制限

経営学科	S1	来年度「研究ゼミナール」を履修する事ができません。
商学科 (編入生)	S1	「専門演習B」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業演習」「卒業研究」を履修する事ができません。
経済学部	S1	「専門演習3」を履修する事ができません。
	S2	「専門演習4」を履修する事ができません。
	S3	「専門演習5」を履修する事ができません。
	Z	2年次後期終了時までに「専門演習1」を含む卒業要件単位が28単位以上修得していない場合は、学科配属が決定されません。(従って、3年次からの「専門演習2」が履修できません。)

## GPA制度と修学指導・退学勧告

本学では、学生の皆さんの学修意欲向上と、教職員による適切な修学指導支援のため、GPA (Grade Point Average) 制度を設けています。

GPAの値が著しく悪化した場合には、学科の教育職員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。

学生の皆さんはGPA制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学習を行ってください。

GPAとは	<p>GPAとはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・Dといった成績評価をGP (Grade Point) と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの取得単位数を乗じたものを履修申請単位数で除して算出される1単位あたりの平均値です。仮に、単位を取得することができた科目の成績が悪くても、一方で不合格となった科目の数も多ければGPAは高くなりません。</p> <p>したがって、GPAを高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学習し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。</p>												
GP	<p>GPは、成績評価に基づき下表のとおりとします。</p> <table border="1" data-bbox="272 534 870 603"> <thead> <tr> <th>成績評価</th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D・*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	成績評価	S	A	B	C	D・*	GP	4	3	2	1	0
成績評価	S	A	B	C	D・*								
GP	4	3	2	1	0								
GPA計算式	<p>GPAは次の式により算出します。</p> $GPA = \frac{(4 \times S \text{の取得単位数}) + (3 \times A \text{の取得単位数}) + (2 \times B \text{の取得単位数}) + (1 \times C \text{の取得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$ <p>(小数点第4位以下切り捨て)</p> <p>なお、GPAの算出には、卒業要件に算入されない教職課程の科目も含め、すべての科目が対象となります。</p> <p>また、GPAは「年度GPA」(年度ごとのGPA)と「累積GPA」(入学以後の通算GPA)の二つに分けられます。</p>												
GPA制度の ねらい	<p>GPAは「4」に近いほど学修状況が良好であることを示します。</p> <p>一方で、GPAが「0」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていないなど、学習状況に何らかの問題が生じている可能性があります。</p> <p>そういった問題を適宜発見し、教職員の指導も交えながら、皆さんの以後の学習改善に繋げるためにGPA制度は有効であるといえます。なお、学修成果把握の目安として成績表に順位を表示します。</p>												
修学指導・ 退学勧告	<p>大学は、GPAが著しく低くなった学生に対し、単位修得状況に応じて、各学科で修学指導(相談)が行われ、また下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年次終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談の上、次年度以降に向けた適切な修学指導を行う。</li> <li>2. 2年次以降の各年度終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談および修学指導を行う。</li> <li>3. 前項の面談および修学指導を行った教育職員は、その結果を学科主任に報告する。</li> <li>4. 前項の報告を受けた学科主任は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告する。</li> <li>5. 前項の報告を受けた学部長は、学科主任と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告する。</li> <li>6. 前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行う。</li> </ol> <p>ただし、GPA制度はあくまでも学生の皆さんの学修意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。</p> <p>上記に定める学科の教育職員の面談・修学指導により、以後の学習改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。</p> <p>一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学習改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますので注意してください。</p>												

## 授業料（等）の納入について

授業料、教育環境充実費(以下「授業料(等)」という。)は前期と後期に分け、それぞれ年額の2分の1を納入していただきます。

また、諸会費(学生会費・自治会費・校友会費・後援会費・学生健康保険組合費)は入学時から8回(編入生は4回)に分けて、授業料(等)の納入時に併せて納入していただきます。

なお、1年分をその年の最初の納入期限までに一括して納入することができます。

詳しくは、本館9階財務課窓口にお問い合わせください。

一旦納入された授業料(等)は、返還いたしません。

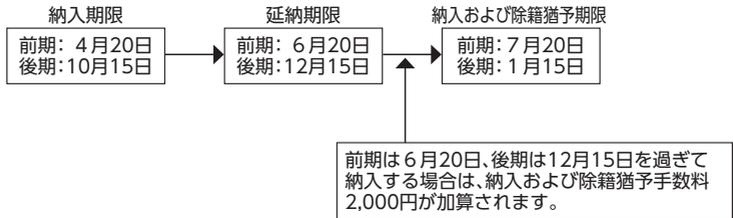
### 納入期限

	前期	後期
授業料(等)納入期限	4月20日	10月15日

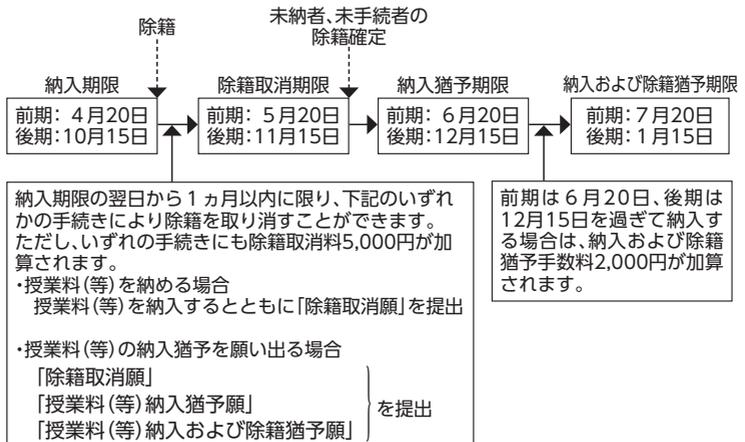
注)納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

※休学願・退学願の手続き期限も同様です。

■納入期限までに延納申請(「授業料(等)延納願」「授業料(等)納入および除籍猶予願」)の提出を行った場合



■納入期限までに(授業料(等)を納めなかった)場合  
延納申請を行わなかった



**振込依頼書**

◎納入方法・金額については、授業料等振込依頼書に記載しています。  
 ※金額については、大阪産業大学学則、別表第3に記載しています。  
 (在学年数が4年を超える学生および2年を超える編入生についても記載)

◎送付時期

前期は3月下旬、後期は9月上旬に保護者宅へ送付します。  
 ※送付されない場合または紛失した場合、本館9階財務課へお問い合わせください。

**学籍異動 (休学・退学・除籍 等)**

学籍異動と授業料(等)納入期限は密接に関係しています。内容をよく確認の上、休学・退学は事前に教務課までご連絡ください。

**休学**

病気その他の理由で休学しようとする者は、在籍料を納付し、「休学願」を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。

◎手続きの流れ

教務課で「休学願」と「在籍料納付書」を受け取る。  
 ※学科によっては、事前に面談が必要ですので、教務課までお問い合わせください。



「休学願」と「在籍料納付書」に必要事項を記入する。  
 ※「休学願」には、本人および保護者(保証人)の自筆の記入欄があります。  
 本館1階の証紙券売機で、在籍料分の証紙を購入し、在籍料納付書に貼付する。



本館9階の財務課に、貼付済の「在籍料納付書」を持参し、在籍料を納付する。



納付後、領収書と控えを受け取り、「休学願」と「在籍料納付書控え」を教務課に提出する。

◎休学期間、提出期限、在籍料について

	通年休学(1年間)	前期休学	後期休学
休学願等提出期限	4月20日	4月20日	10月15日
休 学 期 間	4月1日～3月31日	4月1日～9月20日	9月21日～3月31日
在 籍 料	12万円	6万円	6万円
提 出 書 類 等	休学願、在籍料納付書控え、診断書(病気や怪我の場合)		

※手続きに時間を要する場合があるため、提出期限よりも早めに手続きしてください。

◎休学に関するきまり(学則第20条、学費納入規程第3条の2ほか)

1. 休学期間は通算して3年を超えることはできません。
2. 休学期間の授業料および教育環境充実費は徴収しません。ただし、学期の途中から休学する場合は、その学期の授業料および教育環境充実費は全額徴収します。
3. 休学願等の提出期限は、授業料(等)の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日に当たる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、休学願等の提出期限も同様となります。

◎休学による進級や卒業時期への影響

学科によっては半期の休学でも卒業が1年遅れる場合がありますので、注意してください。  
 詳しくは、教務課で確認してください。

	<p>◎次のような場合は、まず教務課までお問い合わせください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新入生(新編入生含む)が入学後すぐに休学する場合は、入学時に納入された授業料(等)は、休学期間終了後、復学時の授業料(等)に充当しますので、いかなる場合も一切返還いたしません。また、その上で、休学期間に応じた在籍料納付が必要です。</li> <li>2. 留学生で、兵役により年度をまたぐ長期休学が必要な場合については、年度ごとの休学願の提出と、全休学期間分の在籍料納付を一度にまとめて行ってください。</li> </ol>								
<p><b>復学</b></p>	<p>◎休学期間を満了すると、翌日(学期)から手続不要で自動的に復学となりますので、復学前(休学中)に、復学する学期の履修申請や学費納入等、手続きを期間内に行ってください。</p> <p>◎休学期間途中で復学する場合には、「復学願」を教務課に提出し、当該学期の授業料(等)を全額納入しなければなりません。当該学期の在籍料は返還します。</p>								
<p><b>退学</b></p>	<p>病気等やむを得ない理由で退学しようとするときは、「退学願」と学生証(返還のため)を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。</p> <table border="1" data-bbox="272 515 801 568"> <thead> <tr> <th></th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提出期限</td> <td>4月20日</td> <td>10月15日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※退学願の提出期限は、授業料(等)の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、退学願の提出期限も同様となります。</p> <p>※「退学願」には、本人および保護者(保証人)の自筆の記入欄があります。</p> <table border="1" data-bbox="272 699 757 730"> <thead> <tr> <th>提出書類等</th> <th>退学願、学生証(返却)</th> </tr> </thead> </table> <p>提出前に必ず教務課にご相談ください。</p> <p>※通年休学(1年間)中に前期(4月1日から9月20日)の途中で退学した場合、後期(9月21日から3月31日)休学分の在籍料は返還します。</p> <p>※休学期間満了日は、前期9月20日または後期3月31日ですが、休学中に退学を願い出た場合、事情に応じて、願い出日を退学日とすることができます。ただし、学期(休学期間)を遡って退学することはできません。</p>		前期	後期	提出期限	4月20日	10月15日	提出書類等	退学願、学生証(返却)
	前期	後期							
提出期限	4月20日	10月15日							
提出書類等	退学願、学生証(返却)								
<p><b>除籍</b></p>	<p>学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、除籍となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業料(等)について、納入期限を超えても納めないとき</li> <li>(2) 長期に渡って欠席し、または病気その他の理由で成業の見込みのないと認めるとき</li> <li>(3) 学部の同一学科において、休学期間を除き、在学期間が修業年限(学部は4年)の2倍を超えたとき</li> <li>(4) 死亡したとき</li> </ol>								
<p><b>再入学</b></p>	<p>除籍または退学した学生が再入学を希望するときは、再入学試験に合格し、合格手続期間内に再入学金ならびに再入学する学期の授業料(等)を納入しなければなりません。再入学時の授業料(等)については、延納申請ができませんのでご注意ください。</p> <p>なお、再入学試験の受験資格は、出願時に退学後3年を超えない者、除籍後3年を超えない者となっています。</p> <p>再入学者が再入学後に再び退学し、または除籍となったときは、その後の再入学を認めません。</p> <p>※特別な理由がある者については、3年を超えても再入学の願出を認めることがあります。また、再入学の試験その他に関しては、教務課にご相談ください。</p>								

各種届出用紙は教務課窓口で受け取るか、以下の通り大阪産業大学Webサイトよりダウンロードが可能です。

大阪産業大学Webサイトトップページ>MENU>在学生の方>教務課>各種届出・証明書(在学生向け)

## 転科・学部変更について

本学の学生が、現在在籍している学部・学科から他学部・他学科へ移籍することです。  
募集の詳細は、「転科・学部変更試験要項」で確認してください。(検定料:15,000円)

### ① 出願資格

- ・志望する学部の学科に欠員があること。(欠員状況によって実施しない学科もあります。)
- ・1年在学あるいは2年次以上で、改めて当該学科2年次への転籍等を希望する者。
- ・卒業予定者および休学中の学生は「転科・学部変更試験」を受験できません。

### ② 転科・学部変更試験要項について

- ・12月末に本学Webページに掲載します。また、教務課窓口でも配布いたします。

### ③ その他

- ・転籍後は学籍番号が変わりますので、合格手続きの際、確認してください。
- ・修得単位の取り扱いは、転籍先のカリキュラムに準じて単位移行されますが、全ての修得単位が移行されるとは限りません。
- ・合格発表後の辞退は認められません。

**memo**

---



# Chapter 03

## デザイン工学部 情報システム学科 24H 編入生

<b>01</b> 入学区分 .....	35
<b>02</b> 卒業要件単位数(外国人留学生も共通) .....	36
<b>03</b> 卒業研究 .....	38
<b>04</b> 卒業見込証明書 .....	38
<b>05</b> カリキュラム .....	39



# 01 入学区分

編入生は、入学区分がイ、ロの2つにわかれます。個人別区分は情報システム学科において審査・認定されます。

区分	該当者
イ	学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当する者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者
ロ	学則第13条第2項第3号に該当する者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者

## ▶ 学則第13条第2項

- (1) 大学院を修了した者または大学を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者または高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上）を修了した者
- (4) 大学に2年以上在学し、62単位以上（卒業要件に算入されるもの）を修得した者
- (5) 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者
- (6) 本大学が指定する外国の高等教育機関において、前第4号に定める者と同等の資格を取得したと認定された者

## 履修モデル

下のモデルを参考にして、間違いのない履修申請を行ってください。

凡例： 必修科目、枠なしは選択必修

3年次で修得するのが望ましい科目				4年次で修得するのが望ましい科目	
2年次配当科目		3年次配当科目		4年次配当科目	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
プログラミング 演習1	プログラミング 演習2	情報システム 応用演習	情報システム ゼミナール(※1)	卒業研究	卒業研究
情報システム 基礎演習			ネットワーク 構築演習1(※2)		

(※1)「情報システムゼミナール」は必ず3年次で履修してください。

(※2)「ネットワーク構築演習1」を履修する者は「ネットワーク構築演習2」を履修しなければなりません。

## 02 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

### 1 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。入学区分(イ、ロ)により異なりますので間違わないよう注意してください。

#### 区分(イ)

学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当する者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者

フィールド教育科目		要件なし	62単位	学士(工学)
専門教育 科目	必修科目	12単位		
	選択必修科目	2単位以上		
	選択科目	48単位以上 (自由科目4単位を含む。) ※		
2年以上在学				

#### ▶フィールド教育科目

フィールド教育科目は卒業要件単位として認め、修得した単位は、専門教育科目の選択科目として取り扱います。

#### ▶総合教育科目

総合教育科目は卒業要件単位に入りません。

#### ▶専門教育科目62単位

- ①必修科目：「プログラミング演習1」、「プログラミング演習2」、「情報システム基礎演習」、「情報システムゼミナール」、「卒業研究」の5科目12単位を必ず修得してください。
- ②選択必修科目：「情報システム応用演習」および「ネットワーク構築演習1」のうち、いずれか1科目2単位を修得してください。(2単位を超えて修得した単位は、選択科目として取り扱います。)  
「ネットワーク構築演習1」を履修する者は「ネットワーク構築演習2」を履修しなければなりません。
- ③選択科目：①②以外に48単位を修得してください。

#### 区分(ロ)

学則第13条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

フィールド教育科目		要件なし	74単位	学士(工学)
総合教育科目		要件なし		
専門教育 科目	必修科目	12単位		
	選択必修科目	2単位以上		
	選択科目	48単位以上 (自由科目4単位を含む。) ※		
2年以上在学				

※自由科目とは他学部他学科の専門教育科目で、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを専門教育科目の選択科目の単位として卒業要件単位数に算入することができます。

▶ **フィールド教育科目**

フィールド教育科目は卒業要件単位として認め、専門教育科目の選択科目として取り扱います。

▶ **総合教育科目**

総合教育科目は卒業要件単位として認めます。履修を希望する初修外国語科目が母語でないにもかかわらず申請画面に表示されていない場合は、教務課までお問い合わせください。

母語の初修外国語科目が表示されている場合でも、母語は履修できませんのでご注意ください。

▶ **専門教育科目62単位**

①必修科目：「プログラミング演習1」、「プログラミング演習2」、「情報システム基礎演習」、「情報システムゼミナール」、「卒業研究」の5科目12単位を必ず修得してください。

②選択必修科目：「情報システム応用演習」および「ネットワーク構築演習1」のうち、いずれか1科目2単位を修得してください。(2単位を超えて修得した単位は、選択科目として取り扱います。)

「ネットワーク構築演習1」を履修する者は「ネットワーク構築演習2」を履修しなければなりません。

③選択科目：①②以外に48単位を修得してください。

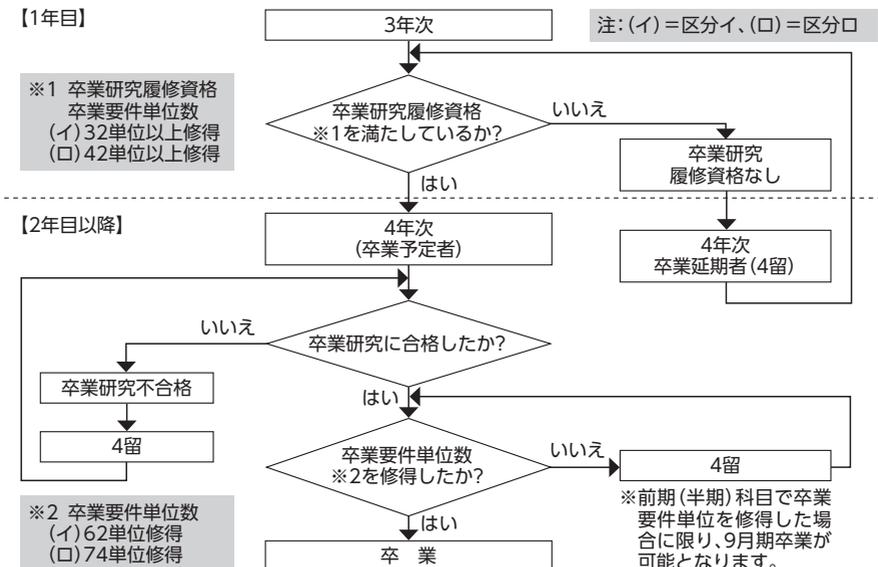
**2 進級の条件**

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

原則として、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。(半期でも休学期間があれば、次年度は進級できません。)

なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課にご相談ください。

**進級および卒業までの流れ**



## 03 卒業研究

### ① 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

### ② 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の条件を満たさなければなりません。

入学区分によって以下の卒業要件単位を修得していること。

区分イ:卒業要件単位数62単位のうち32単位以上

区分ロ:卒業要件単位数74単位のうち42単位以上

### ③ 「ジョイント・プログラム」について

デザイン工学部では、情報システム学科、建築・環境デザイン学科、環境理工学科の各専門分野を横断するテーマを研究する場合、「ジョイント・プログラム」を通じて、所属学科以外の他学科のゼミにおいて卒業研究指導を受けることができます。

「ジョイント・プログラム」に参加を希望する学生は、事前に教務課を通じて、所属学科の担当教員に相談してください。注意点は以下の通りです。

- ・「ジョイント・プログラム」に参加するためには、デザイン工学部が定める「ジョイント・プログラム」内規に則って、所定の審査があります。
- ・「ジョイント・プログラム」は、他学科への転学科を意味するものではありません。「ジョイント・プログラム」参加者は、所属学科のゼミに配属された上で、他学科のゼミで卒業研究指導を受けることができます。その際、卒業要件は所属学科の規定に則ります。また、卒業証書は所属学科において授与されます。
- ・その他、参加手続きや研究の進め方の詳細については、教務課を通じて各学科の担当教員へお問い合わせください。

## 04 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階、梅田サテライトキャンパス内)を利用してください。チャプター1 P9参照

# 05 カリキュラム

## 1 区分(イ)

### フィールド教育科目

フィールド教育科目カリキュラム表

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
フィールド プラクティス	フィールドプラクティス	2	要件なし	8										
	情報と数学	2		2										
	コンピュータの仕組み	2		2										
	デザインと設計	2			2									
	色彩と構図	2				2								
	情報社会と倫理	2			2									
	表現技術	2					2							
	小 計	14			12	4	2	2						

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、8=週4コマの授業があることを示します。3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

専門教育科目

専門教育科目カリキュラム表

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考								
				1年次		2年次		3年次		4年次										
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
基礎科目	基礎数学および演習	4	必 修 1 ・ 選 択 2 以 上 ・ 選 択 4 8 以 上  合 計 6 2 以 上	6																
	代 数 学	1		2	2	(2)														
	解 析 学	1		2	2	(2)														
	数 学 演 習	1		1	2	(2)														
	代 数 学	2		2		2		(2)												
	解 析 学	2		2		2		(2)												
	数 学 演 習	2		1		2		(2)												
	幾 何 学	1		2			2													
	幾 何 学	2		2				2												
	確 率 論	2		2			2													
	統 計 学	2		2				2												
	専門教育科目	J1 専門科目		ソフトウェア基礎論	2			2												
				数 値 解 析	2		2													
				アルゴリズムとデータ構造1	2		2													
				アルゴリズムとデータ構造2	2				2											
				プログラミング言語	2						2									
				ソフトウェアデザイン	2					2										
データベース工学			2						2											
制御システムのデザイン			2					2												
システムの最適デザイン			2					2												
情報システムの構築			2						2											
J2 専門科目		情 報 機 器	2			2														
		情 報 通 信	2						2											
		計測と信号処理	2						2											
		情報ネットワーク	2					2												
		ネットワークプログラミング	2						2											
		情報セキュリティ	2							2										
		論 理 回 路	2			2														
		オペレーティングシステム	2				2													
		ハードウェアデザイン	2						2											
		組込みシステム基礎	2					2												
J3 専門科目	応用組込みシステム	2							2											
	力 と 運 動	2			2															
	光 の 性 質	2				2														
	画 像 処 理	2						2												
	ヒューマンインタフェース	2				2														
	Webプログラミング	2					2													
	コンピュータグラフィックス	2					2													
	コンピュータシミュレーション	2							2											
	感性ものづくり	2					2													
	匠の技と情報科学	2						2												
サービスサイエンス	2								2											
3 次 元 C A D	2						2													
知 的 財 産 権	2							2												

次ページへ続く

専門教育科目カリキュラム表(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科 目	単 位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考								
				1年次		2年次		3年次		4年次										
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
専門教育科目	PBL科目	プログラミング 1	2	(必修12・選必2以上・選択48以上 合計62以上)	2															
		プログラミング 2	2			2														
		デジタルコンテンツ演習	1		2															
		ネットワークアプリケーション演習	1			2														
		プログラミング演習 1	②				4													
		プログラミング演習 2	②					4												
		情報システム基礎演習	②					4												
		情報システム応用演習	2							4										
		ネットワーク構築演習 1	2							4										
	ネットワーク構築演習 2	2								4										
	キャリア関連科目	情報と経営	2					2												(オムニバス形式)
		情報と産業	2				2													(オムニバス形式)
		ライセンス支援 1	2					2												(オムニバス形式)
		ライセンス支援 2	2						2											
		キャリアプランニング 1	2						2											
	研究 卒業	情報システムゼミナール	②								2									
		卒業研究	④												8	8				
	小 計	124			16	12	26	30	32	22	8	8								
	フィールド教育科目、専門教育科目 合 計	138	62以上		28	16	28	32	32	22	8	8								

※ PBL科目：実践ベース学習(Practice Based Learning)科目

注)専門教育科目の履修要件

「情報システム応用演習」および「ネットワーク構築演習1」のうち、いずれか1科目を必修とする。

なお、「ネットワーク構築演習1」を履修する者は、「ネットワーク構築演習2」を履修しなければならない。

2 区分(ロ)

フィールド教育科目

フィールド教育科目カリキュラム表

区分	科 目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
フィールド 教育科目	フィールドプラクティス	2	要件なし	8										
	情 報 と 数 学	2		2										
	コンピュータの仕組み	2		2										
	デ ザ イ ン と 設 計	2			2									
	色 彩 と 構 図	2				2								
	情 報 社 会 と 倫 理	2			2									
	表 現 技 術	2					2							
小 計	14		12	4	2	2								

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、8=週4コマの授業があることを示します。3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

総合教育科目

総合教育科目カリキュラム表

24  
H  
編  
入  
生

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考										
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
総合教育科目	人文科学	文 学	2	要件なし		2																
		哲 学	2			2																
		論 理 学	2				2															
		地 理 学	2				2															
		社 会 思 想 史	2					2														
	社会科学	日 本 国 憲 法	2					2														
		現 代 の 政 治	2						2													
		経 済 学	2							2												
		近 代 史	2								2											
	自然科学	心 理 学	2								2											
		物 質 科 学	2									2										
		宇 宙 科 学	2										2									
		環 境 科 学	2											2								
	学際領域	生 命 科 学	2												2							
		現 代 数 学 入 門	2													2						
		平 和 学	2													2	(2)					
		文 章 表 現 演 習	2														2					
		時 事 問 題	2															2				
		外 国 の 社 会 と 文 化	2															2				
		倫 理 学	2															2				
科 学 技 術 史		2															2					
日本文化		日 本 事 情 1	1	2																	留学生向け科目	
		日 本 事 情 2	2	2																	留学生向け科目	
	日 本 の 社 会 と 文 化 1	1	2																	留学生向け科目		
	日 本 の 社 会 と 文 化 2	2	2																	留学生向け科目		
人間教育	生 涯 学 習 論	2																		教職課程科目		
	人 権 教 育	2																		教職課程科目		

次ページへ続く



専門教育科目

専門教育科目カリキュラム表

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	基礎数学および演習	4		6									
	代 数 学	1	2	2	(2)								
	解 析 学	1	2	2	(2)								
	数 学 演 習	1	1	2	(2)								
	代 数 学	2	2		2		(2)						
	解 析 学	2	2		2		(2)						
	数 学 演 習	2	1		2		(2)						
	幾 何 学	1	2			2							
	幾 何 学	2	2				2						
	確 率 論	2	2				2						
統 計 学	2	2					2						
専門教育科目 専門科目	ソフトウェア基礎論	2				2							
	数 値 解 析	2	2			2							
	アルゴリズムとデータ構造1	2	2			2							
	アルゴリズムとデータ構造2	2	2				2						
	プログラミング言語	2	2						2				
	ソフトウェアデザイン	2	2					2					
	データベース工学	2	2							2			
	制御システムのデザイン	2	2					2					
	システムの最適デザイン	2	2					2					
	情報システムの構築	2	2							2			
	情 報 機 器	2	2				2						
	情 報 通 信	2	2								2		
	計 測 と 信 号 処 理	2	2						2				
	情報ネットワーク	2	2						2				
	ネットワークプログラミング	2	2							2			
	情報セキュリティ	2	2								2		
	論 理 回 路	2	2				2						
	オペレーティングシステム	2	2					2					
	ハードウェアデザイン	2	2							2			
	組込みシステム基礎	2	2						2				
応用組込みシステム	2	2								2			
専門教育科目 専門科目	力 と 運 動	2	2			2							
	光 の 性 質	2	2				2						
	画 像 処 理	2	2					2					
	ヒューマンインタフェース	2	2					2					
	Webプログラミング	2	2						2				
	コンピュータグラフィックス	2	2							2			
	コンピュータシミュレーション	2	2								2		
	感性ものづくり	2	2						2				
	匠の技と情報科学	2	2							2			
	サービスサイエンス	2	2								2		
3 次 元 C A D	2	2						2					
知 的 財 産 権	2	2							2				

必修12・選択2以上・選択48以上 合計74以上

次ページへ続く

専門教育科目カリキュラム表(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考								
				1年次		2年次		3年次		4年次										
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
専門教育科目	PBL科目	プログラミング 1	2	(必修12・選必2以上・選択48以上 合計74以上)	2															
		プログラミング 2	2			2														
		デジタルコンテンツ演習	1		2															
		ネットワークアプリケーション演習	1			2														
		プログラミング演習 1	②				4													
		プログラミング演習 2	②					4												
		情報システム基礎演習	②					4												
		情報システム応用演習	2						4											
	キャリア関連科目	ネットワーク構築演習 1	2						4											
		ネットワーク構築演習 2	2							4										
		情報 と 経 営	2					2												
		情報 と 産 業	2			2														(オムニバス形式)
		ライセンス支援 1	2				2													(オムニバス形式)
		ライセンス支援 2	2					2												(オムニバス形式)
	研究 卒業	キャリアプランニング 1	2					2												
		キャリアプランニング 2	2						2											
情報システムゼミナール		②						2												
	卒 業 研 究	④										8	8							
	小 計	124			16	12	26	30	32	22	8	8								
	フィールド教育科目、総合教育科目、 専門教育科目 合計	223	74以上		62	56	46	50	34	24	8	8								

※ PBL科目：実践ベース学習(Practice Based Learning)科目

注) 専門教育科目の履修要件

「情報システム応用演習」および「ネットワーク構築演習1」のうち、いずれか1科目を必修とする。

なお、「ネットワーク構築演習1」を履修する者は、「ネットワーク構築演習2」を履修しなければならない。

# Chapter 03

## デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 24M 編入生

<b>01</b> 入学区分 .....	49
<b>02</b> 卒業要件単位数(外国人留学生も共通) .....	50
<b>03</b> 卒業研究 .....	53
<b>04</b> 卒業見込証明書 .....	53
<b>05</b> カリキュラム .....	54



# 01 入学区分

編入生は、入学区分が、イ、ロの1、ロの2の3つに分かれます。個人別区分は建築・環境デザイン学科において審査・認定されます。

区分	該当者
イ	建築・環境デザイン学科に相当する <u>高等教育課程※</u> を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者
ロの1	工学系の <u>高等教育課程※</u> を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者
ロの2	工学系以外の <u>高等教育課程※</u> を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

※高等教育課程とは

## ▶ 学則第13条第2項

- (1) 大学院を修了した者、または大学を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者、または高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門教育課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上)を修了した者
- (4) 大学に2年以上在学し、62単位以上(卒業要件に算入されるもの)を修得した者
- (5) 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者
- (6) 本大学が指定する外国の高等教育機関において、前第4号に定める者と同等の資格を取得したと認定された者

## 02 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

### ① 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。入学区分(イ、ロの1、ロの2)により異なりますので、間違わないよう注意してください。

#### 区分(イ)

建築・環境デザイン学科に相当する高等教育課程を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

専門教育科目	<b>都市環境デザインコース</b>		62 単位	学 士 ( 工 学)
	必修科目	26単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	20単位		
	<b>建築デザインコース/インテリアデザインコース</b>			
	必修科目	28単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	18単位		
	<b>クラフトデザインコース/プロダクトデザインコース</b>			
	必修科目	26単位		
選択科目(自由科目4単位を含む。)	36単位			
2年以上在学				

①必修科目：カリキュラム表の各履修コース欄に○印がある科目は、必ず修得してください。

②選択必修科目：都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースは建築工学関連科目分野10科目から、8科目16単位を修得してください。

\*クラフトデザインコース、プロダクトデザインコースは選択科目として扱います。

③選択科目：①②以外から選択してください。

\*都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースの選択必修科目群で16単位を超えたものについては、選択科目として扱います。

#### 区分(ロ)の1

工学系の高等教育課程を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

専門教育科目	<b>都市環境デザインコース</b>		74 単位	学 士 ( 工 学)
	必修科目	30単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	28単位		
	<b>建築デザインコース/インテリアデザインコース</b>			
	必修科目	32単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	26単位		
	<b>クラフトデザインコース/プロダクトデザインコース</b>			
	必修科目	30単位		
選択科目(自由科目4単位を含む。)	44単位			
2年以上在学				

- ①必修科目：カリキュラム表の各履修コース欄に○印がある科目は、必ず修得してください。
- ②選択必修科目：都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースは建築工学関連科目分野10科目から、8科目16単位を修得してください。  
\*クラフトデザインコース、プロダクトデザインコースは選択科目として扱います。
- ③選択科目：①②以外から選択してください。  
\*都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースの選択必修科目群で16単位を超えたものについては、選択科目として扱います。

**区分(口)の2**

工学系以外の高等教育課程を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認めたる者

専門教育科目	<b>都市環境デザインコース</b>		74 単位	学士(工学)
	必修科目	32単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	26単位		
	<b>建築デザインコース/インテリアデザインコース</b>			
	必修科目	34単位		
	選択必修科目	16単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	24単位		
	<b>クラフトデザインコース/プロダクトデザインコース</b>			
	必修科目	32単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	42単位		
	2年以上在学			

- ①必修科目：カリキュラム表の各履修コース欄に○印がある科目は、必ず修得してください。
- ②選択必修科目：都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースは建築工学関連科目分野10科目から、8科目16単位を修得してください。  
\*クラフトデザインコース、プロダクトデザインコースは選択科目として扱います。
- ③選択科目：①②以外から選択してください。  
\*都市環境デザインコース、建築デザインコース、インテリアデザインコースの選択必修科目群で16単位を超えたものについては、選択科目として扱います。

## 2 進級の条件

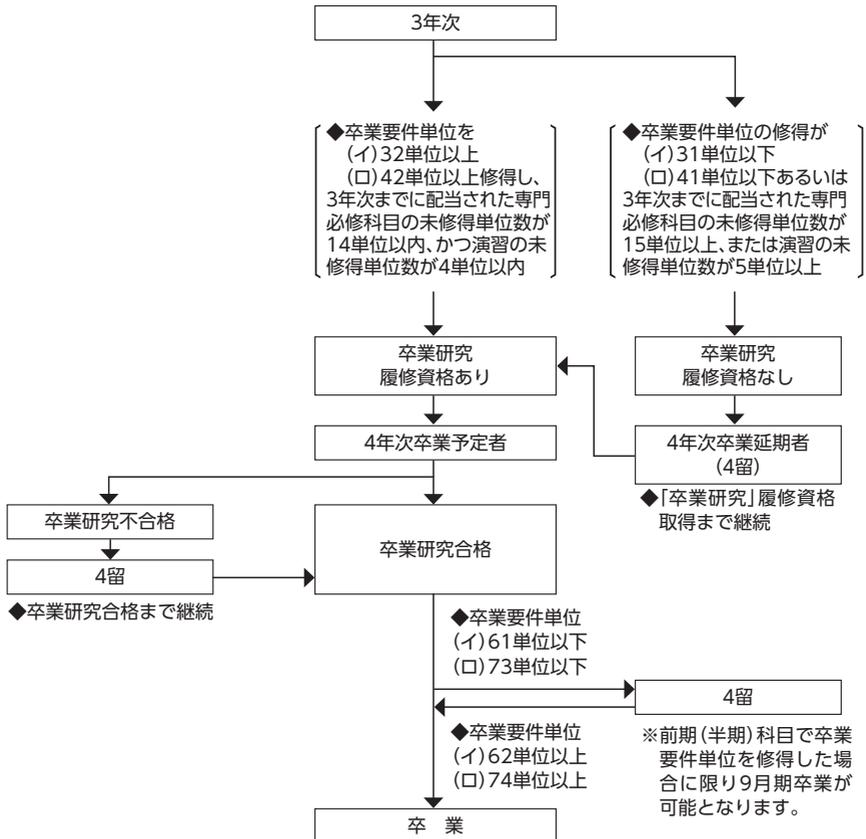
編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できませんが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

原則として、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課までご相談ください。

### 進級および卒業までの流れ

注：(イ) = 区分イ、(ロ) = 区分ロ



## 03 卒業研究

### 1 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

### 2 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- ①入学区分によって以下の卒業要件の単位を修得していること。
  - 区分イ：32単位以上
  - 区分ロ：42単位以上
- ②3年次までに配当された専門必修科目の未修得単位数が14単位以内で、かつ演習の未修得単位数が4単位以内であること。

### 3 「ジョイント・プログラム」

デザイン工学部では、情報システム学科、建築・環境デザイン学科、環境理工学科の各専門分野を横断するテーマを研究する場合、「ジョイント・プログラム」を通じて、所属学科以外の他学科のゼミにおいて卒業研究指導を受けることができます。

「ジョイント・プログラム」に参加を希望する学生は、事前に教務課を通じて、所属学科の担当教員に相談してください。

注意点:

- ・「ジョイント・プログラム」に参加するためには、デザイン工学部が定める「ジョイント・プログラム」内規に則って、所定の審査があります。
- ・「ジョイント・プログラム」は、他学科への転学科を意味するものではありません。「ジョイント・プログラム」参加者は、所属学科のゼミに配属された上で、他学科のゼミで卒業研究指導を受けることができます。その際、卒業要件は所属学科の規定に則ります。また、卒業証書は所属学科において授与されます。
- ・その他、参加手続きや研究の進め方の詳細については、教務課を通じて各学科の担当教員へお問い合わせください。

## 04 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階、梅田サテライトキャンパス内)を利用してください。















# Chapter 03

## デザイン工学部 環境理工学科 24V 編入生

<b>01</b>	入学区分について	63
<b>02</b>	カリキュラムの概要	64
<b>03</b>	卒業要件	
	①卒業要件単位数	66
	②卒業要件単位数詳細	67
<b>04</b>	履修について	
	①履修申請	68
	②履修制限	69
<b>05</b>	進級と卒業に向けて	70
<b>06</b>	カリキュラム	72
<b>07</b>	取得できる資格	77



# 01 入学区分について

編入生は、入学区分が、イ、ロの1、ロの2の3つに分かれます。

区分	該当者
イ	学則第13条第2項第1, 2, 4および5号に該当する者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者
ロの1	学則第13条第2項第3号に該当する者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者
ロの2	工学系以外の高等教育を修了した者、もしくは、本学において同等以上の学力があると認められた者

※高等教育課程とは

## ▶ 学則第13条第2項

- (1) 大学院を修了した者、または大学を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者、または高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門教育課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上)を修了した者
- (4) 大学に2年以上在学し、62単位以上(卒業要件に算入されるもの)を修得した者
- (5) 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者

## 02 カリキュラムの概要

### コース配属について

環境理工学科には、「環境技術コース」「地域生態系コース」「環境緑化コース」「環境計画コース」の4コースがあります。それぞれのコースへの正式配属は、3年次受講の「プレ卒研」にて決定します。

各コースは、専門教育科目区分において、卒業するために必要な必修科目とその単位数がそれぞれ異なります。

### 各コース紹介

#### 環境技術コース：

大気・水・土壌を守るための技術を修得する調査・実験系のコースです。

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のメカニズムを理解し、環境を保全し、修復するために必要な調査、分析、処理といった技術を身につけます。環境科学・技術系のさまざまな資格の取得を目指します。

カリキュラム内容は、理科の教員、環境技術系企業への就職や、大学院進学を目指す学生に適しています。

#### 地域生態系コース：

フィールドワークを学びの要とし、植物と動物を調査・解析し、生物多様性の保全に向けた総合力を養います。森、川、田んぼ、草地、海岸および都市などの生態系における人と自然の調和を考えるため、自然科学と人間—自然関係の視点からアプローチします。カリキュラム内容は、理科の教員、環境コンサルティング(自然調査)、環境系企業、大学院進学などをを目指す学生に適しています。

#### 環境緑化コース：

公園の設計などのランドスケープデザインや建築物の緑化手法など、さまざまな緑の環境づくりを行う知識・技術を身につけた「緑」のスペシャリストを目指します。緑の環境づくりを行う上で大切な植物材料の知識や造園施工の技術、花と緑を使った空間演出のデザイン手法などについて学びます。

造園・緑化・園芸関連企業やハウスメーカーなどへの就職を目指す学生に適しています。

#### 環境計画コース：

環境にやさしいまちや社会をつくるためのソフト工学や仕組みを学びます。環境にやさしく、人々が幸福に暮らせる社会を実現する都市インフラや、コミュニティづくり、資源循環の仕組みづくりについて学びます。

社会調査士などの資格が取得でき、コンサルタントやプランナー、行政や企業の環境担当、資源循環企業を目指す学生に適しています。

**カリキュラムの構成** 区分(イ)(ロ)

環境理工学科の科目群には、フィールド教育科目、専門教育科目、実践教育科目のグループがあります。また、各グループには卒業するために修得が必要な科目(必修科目)と単位数が定められています。それぞれの概要を以下に説明します。

**▶ (1) フィールド教育科目 (要件単位なし)**

フィールド教育科目では、学内・学外の自然・人・まちにあるさまざまな問題を自ら調査・測定し、より望ましい環境を保全・創造していくために必要な知識と行動力を実践的に身につけます。

**▶ (2) 専門教育科目 (14単位以上)**

専門教育科目では、自然・人・まちについて、調査や分析、提案などの実践を通して総合的・多面的な専門知識を修得します。基盤科目分野、発展科目分野、演習科目分野、実験科目分野、卒業研究の科目分野があり、各コースの必修科目・選択科目を合わせて14単位以上を修得しなければなりません。

**▶ (3) 実践教育科目 (4単位以上)**

実践教育科目では、将来社会に出る準備として、学生のうちに身につけておくべきコミュニケーション能力や、ビジネスマナー等を習得します。必修科目を含めて4単位以上を修得しなければなりません。

\*\*それぞれのコースによって単位修得要件が細かく定められています。

各コースの履修要件、卒業要件を確認し履修・修学計画を立ててください。

# 03 卒業要件

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

① 2年以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると2年で卒業することができません。

② 学科で定められた卒業要件単位数を修得

カリキュラム上、卒業に必要な単位・科目は区分、コースによって異なります。

履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

## ① 卒業要件単位数

### 区分(イ)

フィールド教育科目	要件なし		62単位 (自由科目4単位を含む)	学士(理工学)
専門教育科目	環境技術コース 必修科目	10単位		
	選択必修科目	4単位以上		
	地域生態系コース 必修科目	10単位		
	選択必修科目	4単位以上		
実践教育科目	環境緑化コース 必修科目	14単位		
	環境計画コース 必修科目	10単位		
		4単位以上		
2年以上在学				

### 区分(ロ)

フィールド教育科目	要件なし		72単位 (自由科目4単位を含む)	学士(理工学)
専門教育科目	環境技術コース 必修科目	10単位		
	選択必修科目	4単位以上		
	地域生態系コース 必修科目	10単位		
	選択必修科目	4単位以上		
実践教育科目	環境緑化コース 必修科目	14単位		
	環境計画コース 必修科目	10単位		
		4単位以上		
2年以上在学				

## ② 卒業要件単位数詳細

必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目のことです。
選択必修科目	特定の科目群から指定された単位を必ず修得しなければならない科目のことです。 選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。
選択科目	必修科目および選択科目以外の科目から自由に選び修得しなければならない科目のことです。

### ▶ フィールド教育科目 要件なし(区分(イ)(ロ))

### ▶ 専門教育科目 各コース

必修科目 選択必修科目	<p>〈環境技術コース〉 ・ 必修科目10単位、選択必修科目4単位以上</p> <p>〈地域生態系コース〉 ・ 必修科目10単位、選択必修科目4単位以上</p> <p>〈環境緑化コース〉 ・ 必修科目14単位</p> <p>〈環境計画コース〉 ・ 必修科目10単位</p> <p>※各コースによって科目・要件単位数が異なります。 所属コースの科目・単位数をそれぞれ確認し、単位の修得を目指してください。</p>
選択必修科目	<p>〈環境技術コース〉 ・ 「水環境工学」「環境制御論」「原子力とエネルギー」のうち4単位以上を選択必修とする。</p> <p>〈地域生態系コース〉 ・ 「生態学」「植生学と自然」「水生生物学」「生物多様性と文化」のうち4単位を選択必修とする。</p>

※自由科目は専門教育科目の選択科目として取扱い、上限を4単位とする。

### ▶ 実践教育科目(4単位以上)

必修科目	『キャリアデザイン1』『キャリアデザイン2』の2科目、計4単位を必ず修得してください。
------	---

## 04 履修について

### ① 履修申請

「履修」とは、自分が受けたい授業科目を申し込むことです。大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択出来るようになっていきます。本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、履修制限等をよく確認したうえで、申請してください。

\*申請期限までに所定の手続きをとらなかつたり、誤りがあつたりすると、授業に出席して試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。

履修する科目を選ぶ際は、卒業要件を充足できるようきちんと履修計画を立てた上で登録を行ってください。申請の手順については、Web履修申請ガイドブックを別に配布します。また、時間割も合わせて配布しますので、よく確認をして履修登録をしてください。

(時間割は学部・学科によって異なります。また、同じ学部・学科でも入学年度によって異なります)

#### 履修申請における注意点

- ①履修する科目を選ぶためには、それぞれの授業の概要が記載されているWebシラバスを事前によく読んでおいてください。
- ②同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。  
各コースの卒業要件を充足できるよう、きちんと履修計画を立てたうえで登録を行ってください。
- ③履修申請をする際は、1年間の履修計画を立てて前期に1年分まとめて申請してください。  
また、授業によっては、学籍番号などによって指定されているクラスがあります。  
申請する前に必ず確認してください。
- ④学部・学科で行われるガイダンスには必ず参加してください。

#### クラス登録科目について

少人数で行われる授業については、抽選により履修者を決定する科目となっています。  
時間割の科目名の横に、「●」「○」「◎」がある講義が対象です。

クラス登録科目については、応募受付⇒抽選⇒発表の順で行われ、クラス登録科目の応募受付はその他の科目申請に先だつて行われます。

一度当選した科目はキャンセルすることが出来ません。また、抽選からはずれてしまった場合は残席がある場合に限り先着順で登録できます。  
(ただし、期間は前期期間中の本申請または修正期間中のみです。)

クラス登録科目に応募する際はWeb履修申請ガイドブックをよく読み、確認したうえで行ってください。

Web履修申請ハンドブックの巻末には、クラス登録応募下書き用紙・履修申請下書き用紙が付録として綴じられています。履修申請の際にぜひ活用してください。

履修申請で不明な点があれば、履修申請をする前に教務課窓口まで相談に来てください。

## 2 履修制限

### ①履修登録できる単位数

1年間で履修登録ができる授業科目に単位数で上限を設定しています。

環境理工学科では、最大48単位です。

※既に単位認定を受けた科目を再度履修することは出来ません。

※未開講科目がある場合は、ポータルシステムまたは掲示で案内します。

### ②学年による科目の制限

3年次：1～3年次配当科目を履修することができます。

4年次：すべての開講科目を履修することができます。

### ③自由科目について

他学部および他学科の専門教育の内より、製図、演習、実験、実習、外国書購読、卒業研究を除き、30単位まで履修することが出来ます。そのうち4単位までを専門教育科目の選択科目として卒業要件に算入することができます。

### 配当科目・各コース別必修科目一覧

	フィールド教育科目	専門教育科目	実践教育科目
各コース共通科目		「環境理工学演習1・2」 「ブレ卒研」 「卒業研究」	「キャリアデザイン1・2」
環境技術コース		「水環境工学」 「環境制御論」 「原子力とエネルギー」	
地域生態系コース		「生態学」 「植生学と自然」 「水生生物学」 「生物多様性と文化」	
環境緑化コース		「ランドスケープ計画論」 「緑化植物論」	
環境計画コース		コース必修なし	

## 05 進級と卒業に向けて

### 進級について

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、原則として、進級するためには1年を通じて在学していなければなりません。半期でも休学すると2年間での卒業ができなくなります。

なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課にご相談ください。

### 「卒業研究」について

卒業するためには『卒業研究』（4年次配当科目）を修得しなければなりません。また、4年次に「卒業研究」を修得できなければ、4年間で卒業することは出来ません。

『卒業研究』に着手するためには、3年次修了までに以下の条件を満たす必要があります。

#### ▶ 区分(イ)について

卒業要件62単位のうち30単位以上を修得していること。

#### ▶ 区分(ロ)について

卒業要件72単位のうち40単位以上を修得していること。

※『卒業研究』の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請をする前に教務課窓口にご相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請が出来ない場合も、教務課窓口で相談してください。

### 進級の条件

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

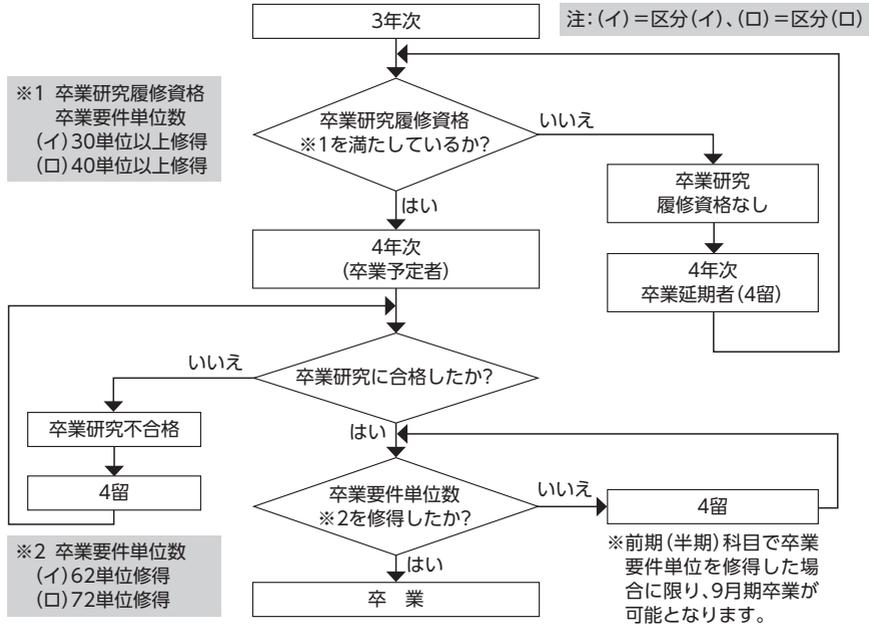
### ジョイント・プログラムについて

デザイン工学部では、情報システム学科、建築・環境デザイン学科、環境理工学科の各専門分野を横断するテーマを研究する場合、『ジョイント・プログラム』を通じて、所属学科以外の他学科のゼミにおいて卒業研究指導を受けることができます。

『ジョイント・プログラム』に参加を希望する学生は、事前に教務課を通じて、所属学科の担当教員に相談してください。注意点は以下の通りです。

- ・『ジョイント・プログラム』に参加するためには、デザイン工学部が定める『ジョイント・プログラム』内規に則って、所定の審査があります。
- ・『ジョイント・プログラム』は、他学科への転学科を意味するものではありません。『ジョイント・プログラム』参加者は、所属学科のゼミに配属された上で、他学科のゼミで卒業研究指導を受けることができます。その際、卒業要件は所属学科の規定に則ります。また、卒業証書は所属学科において授与されます。
- ・その他、参加手続きや研究の進め方の詳細については、教務課を通じて各学科の担当教員へお問い合わせください。

進級および卒業までの流れ



24  
V  
編  
入  
生

# 06 カリキュラム

## ① フィールド教育科目 (区分(イ)(ロ))

単位数を「○」でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)です。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考										
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
フィールド 教育科目	フィールド プラクティス	フィールドプラクティス1	2	要件なし	8																	
		フィールドプラクティス2	2			8																
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門	2		2																	オムニバス
		自然と人の共生	2		2																	オムニバス
		環境緑化入門	2		2	2																オムニバス
		持続可能な社会のデザイン	2		2	2																オムニバス
		環境問題へのアプローチ	2		2				2													オムニバス
小計		14		12	12	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

※週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、8=週4コマの授業があることを示します。

履修制限等により履修できない場合もあります。

注) 時間割とカリキュラム表の記載(前期・後期等)・配当年次が異なる場合は、時間割が優先となります。

2 専門教育科目

○必修科目 ◎選択必修科目

区分	科目	単位	履修コース				卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
			環境技術 コース	地産生態系 コース	環境緑化 コース	環境計画 コース		1年次		2年次		3年次		4年次				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門 教育 科目	環境学概論	2					2										オムニバス	
	データ分析入門1	2					2											
	データ分析入門2	2						2										
	情報機器の操作1	2					4											
	情報機器の操作2	2						4										
	コンピュータグラフィックス	2							4									
	Webデザイン/プレゼンテーション	2								4								
	物理学概論	2						2										
	化学概論	2						2										
	生物学概論	2							2								オムニバス	
	地学概論	2							2									
	環境と物理学	2									2							
	環境と化学	2									2							
	生態学	2		◎							2							オムニバス
	宇宙科学と人類	2									2							
	環境のための分析化学	2								2								
	水環境工学	2		◎						2								
	社会調査の基礎	2								2								
	環境まちづくり論	2									2							
	社会調査の手法	2									2							
大気環境学	2										2							
統計解析の基礎	2										2							
統計解析の応用	2											2						

※週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、8=週4コマの授業があることを示します。

履修制限等により履修できない場合もあります。

注) 時間割とカリキュラム表の記載(前期・後期等)・配当年次が異なる場合は、時間割が優先となります。

24  
V  
編  
入  
生

区分	科目	単位	履修コース				卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
			環境技術 コース	地産生態系 コース	環境緑化 コース	環境計画 コース		1年次		2年次		3年次		4年次			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専 門 教 育 科 目 発 展 科 目	植生管理とビオトープ	2							2								オムニバス
	緑の環境工学	2							2								
	地域コミュニティ論	2							2								
	環境政策論	2							2								
	花と緑の計画論	2								2							
	緑地マネジメント論	2								2							
	廃棄物論	2								2							
	環境経済論	2								2							
	土壌環境論	2									2						
	植生学と自然	2	◎								2						
	ランドスケープ計画論	2			○							2					オムニバス
	地域環境のシステム分析	2										2					
	空間情報科学	2										2					
	環境制御論	2	◎										2				
	原子力とエネルギー	2	◎										2				
	水生生物学	2		◎										2			
	生物多様性と文化	2		◎											2		
	生態系評価とビオトープ施工論	2											2				オムニバス
	緑化植物論	2			○									2			
生命と多様性の科学	2													2			
ランドスケープの歴史	2														2		
環境のマネジメント	2														2		

(環境計画コース)  
(環境緑化コース)  
(地域生態系コース)  
(環境技術コース)  
必修10・選択必4以上  
必修10・選択必4以上

※週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、8=週4コマの授業があることを示します。

履修制限等により履修できない場合もあります。

注)時間割とカリキュラム表の記載(前期・後期等)・配当年次が異なる場合は、時間割が優先となります。

○必修科目 ◎選択必修科目

区分	科目	単位	履修コース				卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考
			環境技術 コース	地域生態系 コース	環境緑化 コース	環境計画 コース		1年次		2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	フィールドスタジオ演習1	2							4							オムニバス
	フィールドスタジオ演習2	2								4						オムニバス
	環境理工学演習1	2	○	○	○	○					4					
	環境理工学演習2	2	○	○	○	○							4			
	地球環境演習	2									2	2				集中
	生態学特別演習1	2							2	2						集中
	生態学特別演習2	2							2	2						集中
	生物資源活用演習	2									2	2				集中
	緑化施工演習	2									2	2				集中
	環境計画フィールド演習1	2							2	2						集中
	環境計画フィールド演習2	2									2	2				集中
	緑地マネジメント演習	2									2	2				集中
	C A D 演習 1	1								2						
	C A D 演習 2	1									2					
G I S 演習 1	2										4					
G I S 演習 2	2											4				
実験	物理学実験	2						4								コンピュータ 活用を含む
	化学実験	2							4							オムニバス コンピュータ 活用を含む
	生物学実験	2								4						コンピュータ 活用を含む
	地学実験	2								4						オムニバス コンピュータ 活用を含む
卒業研究	プレ卒研	2	○	○	○	○					4	4				
	卒業研究	4	○	○	○	○								8	8	
	小 計	134					10~14以上		12	10	38	44	36	36	14	8

(環境計画コース 必修10)  
(環境緑化コース 必修14)  
(地域生態系コース 必修10・選択必4以上)  
(環境技術コース 必修10・選択必4以上)

24  
V  
編  
入  
生

注) 専門教育科目の履修要件

(環境技術コース)

- ・「水環境工学」「環境制御論」「原子力とエネルギー」のうち4単位以上を選択必修とする。

(地域生態系コース)

- ・「生態学」「植生学と自然」「水生生物学」「生物多様性と文化」のうち4単位を選択必修とする。

\*週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、8=週4コマの授業があることを示します。

履修制限等により履修できない場合があります。

注) 時間割とカリキュラム表の記載(前期・後期等)・配当年次が異なる場合は、時間割が優先となります。

### 3 実践教育科目

単位数を「○」でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)です。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
実践 教育 科目	キャリア 関連 科目	環境資格対策 1	1	4 以上	2								オムニバス オムニバス 集中 集中・オムニバス
		環境資格対策 2	1			2							
		キャリアデザイン 1	②				2						
		キャリアデザイン 2	②					2					
		特別演習 1	1						2				
		特別演習 2	1							2			
小 計		8	4以上	2	2	2	2	2	2	0	0		
フィールド教育科目、専門教育科目、 実践教育科目 合計		64	イ)62以上 ロ)72以上	26	24	40	48	36	38	14	8		

※週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、8=週4コマの授業があることを示します。

履修制限等により履修できない場合もあります。

注)時間割とカリキュラム表の記載(前期・後期等)・配当年次が異なる場合は、時間割が優先となります。

## 07 取得できる資格

本学在学中や卒業後に取得を目指す資格は以下の通りです。履修コースや履修科目選択の参考にしてください。詳細は担当窓口にお問い合わせください。

●・・・国家資格    ○・・・公的・民間資格

### 1. 教員免許状

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム・詳細
● 中学校教諭一種免許状(理科)	教職課程の所定科目単位の修得および卒業	教職教育センター	詳細は教職ガイドブックを参照
● 高等学校教諭一種免許状(理科)	教職課程の所定科目単位の修得および卒業	教職教育センター	詳細は教職ガイドブックを参照

### 2. 卒業と同時に取得できる資格

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム・詳細
○ 社会福祉主事任用資格	特定科目の修得および卒業	教務課	

### 3. 在学中にめざしたい資格

免許(資格)の種類	認定の内容など	担当窓口	カリキュラム・詳細
● 技術士補(上下水道部門・衛生工学部門・環境部門)		濱崎・高浪	
● 公害防止管理者(水質)		濱崎	
● 宅地建物取引士	土地や建物と密接に関わる業界では、業務上必要な資格	田中	
● 放射線取扱主任者		裕	
● 放射線業務従事者		裕	
● 危険物取扱者(乙種)		高浪	
○ 2級ビオトープ計画管理士	特定科目の修得により筆記試験の一部免除	島野	
○ 2級ビオトープ施工管理士	特定科目の修得により筆記試験の一部免除	島野	

免許(資格)の種類	認定の内容など	担当窓口	カリキュラム・詳細
<input type="radio"/> 環境再生医(初級)	所定科目単位の修得 (在学中の申請が必要)	鶴田	
<input type="radio"/> 環境社会検定(eco検定)		資格サポートセンター	
<input type="radio"/> 生物分類技能検定		環境理工学科事務室	
<input type="radio"/> 3R・気候変動検定		花嶋	
<input type="radio"/> 環境管理士		環境理工学科事務室	
<input type="radio"/> MOS(Microsoft Office Specialist)スペシャリストレベル(一般) Word & Excel	ビジネス上で必要とされるOfficeソフトのスキルを証明する資格	環境理工学科事務室	
<input type="radio"/> 社会調査士	所定科目単位の修得 (在学中の申請が必要)	川田	

#### 4. 卒業後にめざしたい資格

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム・詳細
● 1級・2級造園施工管理技士	所定科目単位修得により、実務経験期間が短縮	竹田	

#### 5. 特定科目の修得によって認定される資格

資格の種類	認定の内容	対象学科	取得の要件
社会福祉主事	任用資格	全学科	特定科目の修得および卒業
社会保険労務士	受験資格	全学科	卒業要件に必要とする62単位以上修得

※社会福祉主事の指定科目については、次ページに掲載しています。

**社会福祉主事**

社会福祉主事となる資格を得ようとする者は、社会福祉法第19条の定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最 低 修 得 単 位 数	週 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
倫 理 学 ( 工 業 倫 理 含 む )	2	6	2									○
経 済 学	2			2								○
心 理 学	2		2									○
社 会 調 査 の 基 礎	2			2								○
医 学 一 般	2			2								□
公 衆 衛 生 学	2					2						□

- 注) 1.履修については、3科目6単位を修得すること。  
 2.備考欄中の○印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目  
 3.備考欄中の□印は、当該学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

**6. 本学で実施する資格試験**

資格の種類	取得の要件・その他
ガス溶接技能者	学外で講習を実施 ※詳細、申込は資格サポートセンターへ

24  
V  
編  
入  
生



# Chapter 03

## 工学部 機械工学科

### 24F 編入生

<b>01</b>	入学区分	83
<b>02</b>	履修申請	83
<b>03</b>	成績表の見方	85
<b>04</b>	卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	86
<b>05</b>	卒業研究	89
<b>06</b>	卒業見込証明書	89
<b>07</b>	資格取得	89
<b>08</b>	カリキュラム	90



## 01 入学区分

編入生は、入学区分(資格)がイ、ロの2つに分かれます。個人別区分は機械工学科において審査・認定されます。

区分	該当者
イ	学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者
ロ	学則第13条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

### ▶ 学則第13条第2項

- (1) 大学院を修了した者または大学を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者または高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上)を修了した者
- (4) 大学に2年以上在学し、62単位以上(卒業要件に算入されるもの)を修得した者
- (5) 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者
- (6) 本大学が指定する外国の高等教育機関において、前第4号に定める者と同等の資格を取得したと認定された者

## 02 履修申請

- ・ 機械工学科編入生の履修制限は、1年間に履修できる単位数が48単位です。
- ・ 大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けた科目を選択できるようになっています。
- ・ 「履修申請」は大学側では行いません。自分が受ける授業科目(時間割)を自分自身で申込む必要があります。
- ・ 初年度の「履修申請」は、次年度以降の履修(卒業)にも影響しますので、履修制限等をよく読んで上で、自分の時間割の計画を立てて自分で申請してください。
- ・ 申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けて成績が優秀でも単位が認められませんので、慎重に行ってください。
- ・ 申請は、別に配布する「Web履修申請ガイドブック」に従って各自で行ってください。

### ① 履修計画における注意点

- ① 事前に「Webシラバス(授業計画書)」をよく読んでください。
- ② 各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受ける科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。
- ③ 学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。各学年のカリキュラム、履修条件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
- ④ 各学年での配当科目を確認して、卒業資格最低単位数(卒業要件単位数)を充足できるよう重点を置いてください。
- ⑤ 申請する前に、学籍番号などによって指定されている科目やクラス等を確認してください。
- ⑥ 各ガイダンスには必ず参加してください。
- ⑦ 既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。
- ⑧ 特に、専門教育科目の実習、演習などの科目は、2～3時間連続で開講されるため、重複が発生しやすいものもあります。履修科目が配当年次で修得できないと、次年度の必修科目と重複し、修得が遅れることがありますので注意してください。

## ② 手続方法

下記の①②については、Chapter01のP14-15の1.~3.を参照してください。

### ①履修計画(時間割)を立てる

### ②登録手続き(クラス登録・本申請・修正登録)

a. クラス登録科目の応募

b. 本申請

c. 修正

#### クラス登録の要領について

- ・講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印がある講義科目の履修を希望する場合は、本申請に先立ちクラス登録が必要です。
- ・クラス登録は、応募受付⇒抽選⇒発表(本申請時には、当選した科目が画面に自動表示されています。)の順で行われます。
- ・当選した講義科目は取り消すことができません。なお、抽選にはずれた方は、本申請期間または修正期間に残席がある場合に限り先着順で登録できます。
- ・クラス登録科目や先着順科目の申請・修正は後期にはできません。

### ③言語文化科目

- ・担当教員は、後日結果画面で確認できます。決定した担当教員のクラスで履修申請してください。
- ・第1希望にもれた場合は、同一曜日・时限の別のクラスに割当てられることがあります。

### ④身体科学科目

- ・再履修者は、再クラスでの登録となります。
- ・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。

## ③ 自由科目

他学部(自分の所属する学部以外)および他学科(自分の所属する学科以外)の専門教育科目を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。(これを「自由科目」と称します。)ただし、履修の認められない科目、その他各学科の事情等により除外する科目があります。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスを熟読のうえ選択してください。(Webシラバスは、大学HPの在学生ページ左上等から確認できます。)

自由科目は、WEB履修申請画面で確認できる(表示されている)科目から選択してください。(履修申請時の科目選択画面より、「自由科目」のタブから確認してください。)

自由科目で卒業要件単位に算入できるのは4単位までなので注意してください。

他学科が開講する科目で、所属学科の必修科目と同名の講義があっても、その必修科目との置き換えはできません。その同名講義は自由科目として認定されてしまいます。

# 03 成績表の見方

## 成績発表の時期

Chapter01 P3「一年間の流れ(学年暦概略)」を参照してください。

## 確認方法

Chapter01 P23「成績」、P26・27「成績表の見方」を参照してください。

## 卒業に関わる項目の見方

Chapter03 P88「進級の条件」を参照しながら、下記の例を参考にしてください。

Chapter01 P27「表⑥について」と相互に確認をしましょう。

●3年次後期(学年末)の成績表には、次年度の卒業研究履修資格の有無が記載されています。

・4年次に卒業研究履修資格があり、卒業見込み“有り”の状態になる。

発表時			次年度		
履修年次			履修年次	卒見証発行	卒研資格
3年次			4年次	有	有

・4年次に卒業研究履修資格がない。4年次では卒業見込みがない。

発表時			次年度		
履修年次			履修年次	卒見証発行	卒研資格
3年次			4年次	無	無

●4年次後期(学年末)の成績表では、卒業見込みが有る場合、卒業が確定したのかどうかを確認できます。卒業延期となった場合には、次年度の卒業研究履修資格の有無、卒業見込みの有無が記載されます。

・4年次に卒業要件単位を全て修得でき、卒業が確定した。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次		
4年次	有	有	卒1		

・今年度、卒業研究履修資格はあったが、卒業要件単位を全て修得できなかったため、卒業延期(留年)が決まった。次年度は、卒業要件単位を全て修得する見込みがあり、卒業研究履修資格については、履修可能は「既有」、修得済みは「済」と記載される。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	有	4留	有	既有/済

・今年度の単位修得により、次年度は、卒業研究履修資格を得られ、卒業見込み“有り”の状態になる。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	無	4留	有	有

・今年度の単位修得数では、次年度は卒業研究履修資格を得られず、卒業見込みもない。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	無	4留	無	無

## 04 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

### ① 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。入学区分(イ、ロ)により異なりますので間違わないよう注意してください。

#### 区分(イ)

学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

	実践教育科目			
専門教育科目	機械工学専門基礎科目	必修科目 18単位 選択科目 44単位 (自由科目 4単位を含む。)	62単位	学士(工学)
	機械工学専門応用科目			
	卒業研究・ゼミナール科目			
2年以上在学				

#### ▶ 総合教育科目

総合教育科目は卒業要件単位に入りません。

#### ▶ 実践教育科目および専門教育科目62単位

##### ① 必修科目

「材料力学1」、「機械力学1」、「熱力学1」、「流体力学1」、「制御工学1」、「機械工学実験」、「ゼミナール」、「卒業研究1」および「卒業研究2」の9科目 18単位を必ず修得してください。

##### ② 選択科目

実践教育科目および専門教育科目から合わせて 44単位を修得します。

※ 専門基礎科目群の科目を修得しても卒業要件単位には入りません。

※ 「学科入門ゼミナール」および「基礎数学および演習」は履修することができません。

**区分(口)**

学則第13条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

総合教育科目		12単位		74 単位	学士(工学)
実践教育科目		必修科目 18単位 選択科目 44単位 (自由科目4単位を含む。)			
専門教育科目	専門基礎科目				
	機械工学専門基礎科目				
	機械工学専門応用科目				
	卒業研究・ゼミナール科目				
		62単位			
2年以上在学					

▶ **総合教育科目12単位**

※「教養入門ゼミ」は履修することができません。

▶ **実践教育科目および専門教育科目62単位**

① **必修科目**

「材料力学1」、「機械力学1」、「熱力学1」、「流体力学1」、「制御工学1」、「機械工学実験」、「ゼミナール」、「卒業研究1」および「卒業研究2」の9科目 18単位を必ず修得してください。

② **選択科目**

実践教育科目および専門教育科目から合わせて 44単位を修得します。

※「学科入門ゼミナール」および「基礎数学および演習」は履修することができません。

## 2 進級の条件

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請することができます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

原則として、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。なお、留学などの理由で休学する場合には、事前に教務課に相談してください。

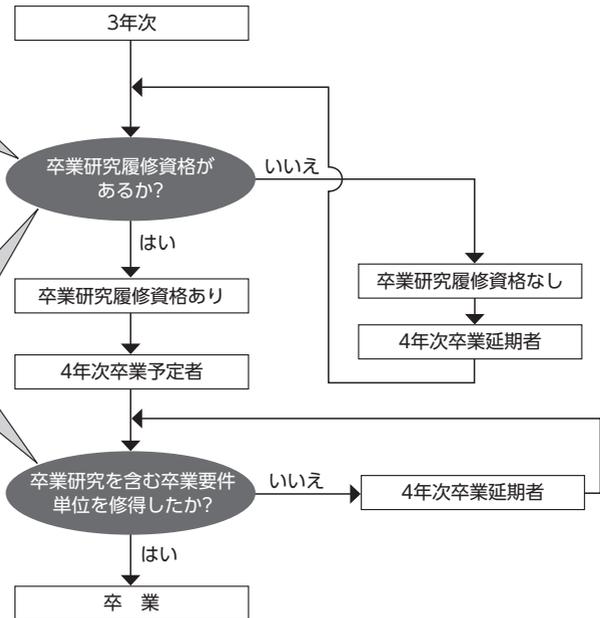
### 進級および卒業までの流れ

卒業研究履修資格について

4年次進級前に、次の2つの条件を両方とも満たすこと。

- ①卒業要件単位数のうち次の単位以上の修得があること  
区分(イ):32単位  
区分(ロ):42単位
- ②3年次に配当された専門必修科目の未修得が8単位以内

年度末の判定で丸型の条件を満たせない場合、その都度卒業が1年延期になります。



※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

## 05 卒業研究

### 1 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、WEB履修申請をする前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

### 2 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

①入学区分によって以下の卒業要件単位を修得していること。

区分(イ)：32単位以上 区分(ロ)：42単位以上

②3年次までに配当された専門必修科目の未修得が8単位以内であること。

## 06 卒業見込証明書

4年次に履修申請した単位で、卒業要件単位124単位(卒業研究含む)を充足すると、同時に卒業予定者となり、その学生は4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階)を利用してください。

## 07 資格取得

学科によって、卒業または特定の科目を修得することを条件に資格や免許の取得で優遇されるものがあります。以下の一覧表を参考に履修コースや履修科目を選択してください。

### 1. 教員免許状

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(工業)	工学部全学科	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得(詳細は教職ガイダンスで説明します)

### 2. 特定科目の修得によって認定される資格

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
社会福祉主事	任用資格	全学科	注※特定科目の修得および卒業
社会保険労務士	受験資格	全学科	卒業要件に必要とする62単位以上修得

注※厚生労働省のホームページもあわせてご確認ください。

### 3. 本学で申し込める資格試験

資格の種類	対象学科	取得の要件・その他
ガス溶接技能者	全学科	学外で講習を実施 ※詳細、申込は資格サポートセンターへ

# 08 カリキュラム

## ① 区分(イ)

①総合教育科目は卒業要件単位に入りません

## ②実践教育科目

(-印は履修できない科目)

区分	科目	単位	最低単位数 卒業資格	週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
実践 教育 科目	学 科 入 門 ゼ ミ ナ ー ル	-		-									(集中)
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 基 礎 1	2		2									
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 基 礎 2	2			2								
	テ ク ニ カ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 1	2			2								
	テ ク ニ カ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 2	2				2							
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				2							
	コ ン ピ ュ ー タ 演 習	2			2								
	技 術 者 倫 理	2							2				
小 計													

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次には1年次の、2年次には1、2年次の、3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。



(○印は必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
24F編入生(イ) 専門教育科目 機械工学専門応用科目 卒業研究・ゼミナール科目	制御工学	2	2					2						
	先端構造デザインと防災	2	2					2						
	機械4力学応用	2	2						2					
	材料強度学	2	2					2						
	CAE	2	2						2					
	先端複合材料	2	2						2					
	機械要素	2	2			2								
	機械工作法	2	2				2							
	トライボロジー	2	2					2						
	工業数学1	2	2			2								
	工業数学2	2	2				2							
	AI・DX・DS概論	2	2				2							
	プログラミング	2	2				2							
	ロボティクス	2	2						2					
	電気・電子工学	2	2					2						
	計測工学	2	2						2					
	IoTセンシング	2	2			2								
	ビッグデータ解析	2	2				2							
	情報技術	2	2					2						
	機構学	2	2						2					
	伝熱工学	2	2					2						
	カーボンフリーエネルギー学	2	2					2						
	宇宙開発入門セミナー	2	2			2								
	宇宙工学	2	2						2					
	プロダクトデザイン	2	2							2				
	生体力学	2	2			2								
	医工学概論	2	2				2							
	再生医工学	2	2					2						
	福祉工学	2	2						2					
	バイオメカニクス	2	2							2				
非破壊検査1	2	2						2						
非破壊検査2	2	2							2					
工業英語1	2	2							2					
工業英語2	2	2								2				
卒業研究・ゼミナール	②	②							2					
卒業研究	1	②								8	(8)			
卒業研究	2	②								(8)	8			
小計														
実践教育科目、専門教育科目 合計			62											

(必修18・選択44以上 合計62以上)

注) 実践教育科目および専門教育科目の履修要件

・卒業要件単位に算入しない科目

表中備考欄に[\*]印のついた科目は履修しても卒業要件単位に入らない。

・選択科目44単位は実践教育科目および専門教育科目から修得すること。

2 区分(口)

①総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目・-印は履修できない科目)

区分	科 目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考									
				1年次		2年次		3年次		4年次											
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
総合教育科目	教養教育科目	教 養 入 門 ゼ ミ	-	-																	
		文 学	2	2																	
		哲 学	2	2																	
		論 理 学	2	2																	
		地 理 学	2	2																	
		社 会 思 想 史	2	2																	
		日 本 国 憲 法	2	2		2															
		現 代 の 政 治	2	2		2															
		経 済 学	2	2		2															
		近 代 史	2	2		2															
		心 理 学	2	2		2															
		物 質 科 学	2	2	12以上	2															
		宇 宙 科 学	2	2	12以上	2															
	環 境 科 学	2	2	12以上	2																
	生 命 科 学	2	2	12以上	2																
	現 代 数 学 入 門	2	2	12以上	2																
	学際領域	平 和 学	2	2	2	(2)															
		時 事 問 題	2	2	2																
		外 国 の 社 会 と 文 化	2	2	2																
		倫 理 学	2	2	2																
科 学 技 術 史	2	2	2																		
日本文化	日 本 事 情 1	2	2	2																留学生向け科目	
	日 本 事 情 2	2	2	2		2														留学生向け科目	
	日 本 の 社 会 と 文 化 1	2	2	2		2														留学生向け科目	
	日 本 の 社 会 と 文 化 2	2	2	2		2														留学生向け科目	

24 F 編入生(口)



## 注)総合教育科目の履修要件

- イ 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)は複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。  
ただし、各言語は、必ず「入門1」から履修しなければならない。
- ロ 留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。  
※履修を希望する初修外国語科目が母語でないにもかかわらず申請画面に表示されていない場合は、  
教務課までお問い合わせください。  
母語の初修外国語科目が表示されている場合でも、母語は履修できませんのでご注意ください。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

②実践教育科目

(単位数の -印は履修できない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
				1年次		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
実践 教育 科目	学 科 入 門 ゼ ミ ナ ー ル	-		-									(集中)
	コミュニケーション基礎1	2		2									
	コミュニケーション基礎2	2			2								
	テクニカルコミュニケーション1	2				2							
	テクニカルコミュニケーション2	2					2						
	インターンシップ	2						2					
	コンピュータ演習	2		2									
	技術者倫理	2							2				
小 計													

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。



(○印は必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
24F編入生(口) 専門教育科目 機械工学専門応用科目 卒業研究・ゼミナール科目	制御工学	2	2					2						
	先端構造デザインと防災	2	2					2						
	機械4力学応用	2	2						2					
	材料強度学	2	2					2						
	CAE	2	2						2					
	先端複合材料	2	2						2					
	機械要素	2	2			2								
	機械工作法	2	2				2							
	トライボロジー	2	2					2						
	工業数学1	2	2				2							
	工業数学2	2	2					2						
	AI・DX・DS概論	2	2					2						
	プログラミング	2	2					2						
	ロボティクス	2	2							2				
	電気・電子工学	2	2						2					
	計測工学	2	2							2				
	IoTセンシング	2	2			2								
	ビッグデータ解析	2	2				2							
	情報技術	2	2					2						
	機構学	2	2							2				
	伝熱工学	2	2						2					
	カーボンフリーエネルギー学	2	2						2					
	宇宙開発入門セミナー	2	2			2								
	宇宙工学	2	2							2				
	プロダクトデザイン	2	2							2				
	生体力学	2	2			2								
	医工学概論	2	2				2							
	再生医工学	2	2					2						
	福祉工学	2	2						2					
	バイオメカニクス	2	2							2				
非破壊検査1	2	2						2						
非破壊検査2	2	2							2					
工業英語1	2	2							2					
工業英語2	2	2								2				
卒業研究・ゼミナール	②	②							2					
卒業研究	1	②								8	(8)			
卒業研究	2	②								(8)	8			
小計														
実践教育科目、専門教育科目 合計			62											

(必修18・選択44以上 合計62以上)

注) 実践教育科目および専門教育科目の履修要件  
 ・ 選択科目44単位は実践教育科目および専門教育科目から修得すること。

# Chapter 03

## 工学部 交通機械工学科 24G 編入生

<b>01</b> 入学区分 .....	101
<b>02</b> 卒業要件単位数(外国人留学生も共通) .....	102
<b>03</b> 卒業研究 .....	105
<b>04</b> 卒業見込証明書 .....	105
<b>05</b> カリキュラム .....	106



# 01 入学区分

編入生は、入学区分(資格)がイ、ロの2つに分かれます。個人別区分は交通機械工学科において審査・認定されます。

区分	該当者
イ	学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当し、かつ、出身学科が交通機械工学科または機械工学科に相当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認めた者
ロ	学則第13条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認めた者

## ▶ 学則第13条第2項

- (1) 大学院を修了した者または大学を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者または高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上)を修了した者
- (4) 大学に2年以上在学し、62単位以上(卒業要件に算入されるもの)を修得した者
- (5) 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者
- (6) 本大学が指定する外国の高等教育機関において、前第4号に定める者と同等の資格を取得したと認定された者

## ▶ コース制について

- ・ 初年度履修申請時に、自動車工学コースまたは交通機械コースを選択します。
- ・ 自動車工学コースから交通機械コースへのコース変更は、申請に基づいて行います。この申請は毎学年初めの履修申請時期の決められた期間のみで可能です。コース変更する場合、自動車工学コースで修得した自動車工学コース限定科目の単位は選択科目として卒業要件単位に算入されます。
- ・ 交通機械コースから自動車工学コースへの変更は認められません。
- ・ 「自動車工学実習1」、「自動車工学実習2」および「自動車工学実習3」は自動車工学コースのみ履修することができます。(自動車工学コース限定科目)

## 02 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

### ① 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。入学区分(イ、ロ)により異なりますので間違わないよう注意してください。

#### 区分(イ)

学則第13条第2項第1、2、4および5号の何れかに該当し、かつ、出身学科が交通機械工学科または機械工学科に相当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認めたる者

総合教育科目	言語文化科目	英語	(留学生に限る)	} 2単位	62単位	学士(工学)		
		日本語						
専門教育科目	自動車工学コース							
	必修科目			50単位				
	選択科目(自由科目及び実践教育科目の4単位含む)			10単位				
	交通機械コース							
必修科目			26単位					
選択科目(自由科目及び実践教育科目の6単位含む)			34単位					
2年以上在学								

#### 自動車工学コース

総合教育科目	言語文化科目分野の英語科目群から2単位を修得してください。留学生は、英語の代わりに日本語科目群から修得してもかまいません。それ以外は修得しても卒業要件単位に入りません。
専門教育科目(60単位)	①必修科目:「セミナー」2単位、「卒業研究」4単位、およびカリキュラム表の備考欄に定める二級自動車整備士科目19科目44単位、計50単位を必ず修得してください。 ②選択科目:①以外に10単位を修得してください。

#### 交通機械コース

総合教育科目	言語文化科目分野の英語科目群から2単位を修得してください。留学生は、英語の代わりに日本語科目群から修得してもかまいません。それ以外は修得しても卒業要件単位に入りません。
専門教育科目(60単位)	①必修科目:「基礎数学および演習」、「基礎物理学および演習」、「機械力学」、「機械設計・要素学」、「基礎鉄道工学」、「交通システム工学」、「ピークルエネルギー工学」、「交通機械論」、「交通機械実験・実習」、「セミナー」および「卒業研究」の11科目26単位を必ず修得してください。 ②選択科目:①以外に34単位を修得してください。

**区分(口)** 編入できるコースは交通機械コースに限る

学則第13条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認めた者

総合教育科目	言語文化科目	英語	} 2単位 (留学生に限る)	74単位	学士(工学)
		日本語			
専門教育科目	交通機械コース				
	必修科目		44単位		
	選択科目(自由科目及び実践教育科目の6単位含む)		28単位		
2年以上在学					

**交通機械コース**

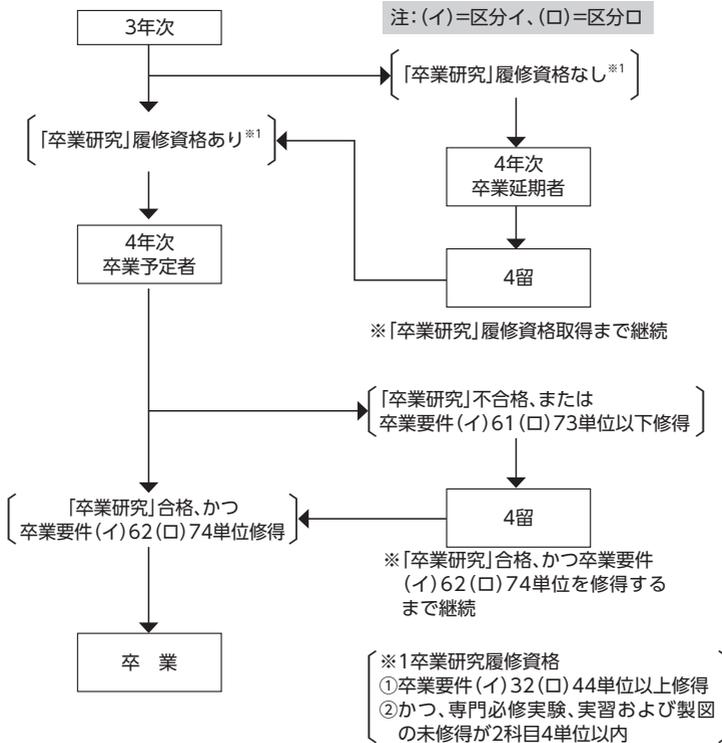
総合教育科目	言語文化科目分野の英語科目群から2単位を修得してください。留学生は、英語の代わりに日本語科目群から修得してもかまいません。それ以外は修得しても卒業要件単位に入りません。
専門教育科目(72単位)	<p>①必修科目:「基礎数学および演習」、「基礎物理学および演習」、「工業力学1」、「工業力学演習」、「材料力学」、「材料力学演習」、「機械動力学」、「機械製図」、「機械設計・要素学」、「材料工学」、「流体工学」、「流体工学演習」、「熱工学」、「熱工学演習」、「電気工学」、「基礎鉄道工学」、「交通システム工学」、「ビークルエネルギー工学」、「交通機械論」、「交通機械実験・実習」、「セミナー」および「卒業研究」の22科目44単位を必ず修得してください。</p> <p>②選択科目:①以外に28単位を修得してください。</p>

## ② 進級の条件

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

原則として、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。なお、留学などの理由で休学する場合には、事前に教務課に相談してください。

### 進級および卒業までの流れ



※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

## 03 卒業研究

### ① 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

### ② 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

①入学区分によって以下の卒業要件単位を修得していること。

区分(イ) : 32単位以上

区分(ロ) : 44単位以上

②下記参考の備考にも記してある通り、各コースで定められた科目数や単位数を修得すること。

**参 考** (「卒業研究」履修資格を得るために必要な科目)

科目名	必修コース	単位数	備考
機械製図	区分(イ) 自動車工学コース 区分(ロ) 交通機械コース	2	左記のうち、各コース必修科目の未修得単位が、2科目4単位以内。
交通機械基礎実習	区分(イ) 自動車工学コース	2	
交通機械実験・実習	区分(イ) 交通機械コース 区分(ロ) 交通機械コース	2	
自動車工学実習1	区分(イ) 自動車工学コース	4	
自動車工学実習2	区分(イ) 自動車工学コース	4	
自動車工学実習3	区分(イ) 自動車工学コース	4	

## 04 卒業見込証明書

4年次に履修申請した単位で卒業要件単位区分(イ)62単位、区分(ロ)74単位(卒業研究含む)を充足すると、同時に卒業予定者となり、その学生は4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階)を利用してください。

# 05 カリキュラム

## 1 区分(イ)

### 総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考										
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
総合教育科目	英語	英語(Listening&Speaking)1	1	2	2																	
		英語(Listening&Speaking)2	1			2																
		英語(Listening&Speaking)3	1				2															
		英語(Listening&Speaking)4	1					2														
		TOEIC上級(Listening)1	1				2															
		TOEIC上級(Listening)2	1					2														
		英語(Reading&Writing)1	1			2																
		英語(Reading&Writing)2	1				2															
		英語(Reading&Writing)3	1					2														
		英語(Reading&Writing)4	1						2													
		TOEIC上級(Reading)1	1					2														
		TOEIC上級(Reading)2	1						2													
		英語総合(上級)1	1							2												
		英語総合(上級)2	1								2											
	英語海外研修	2					2	2												(集中)		
	日本語	日本語読解1	1		2																留学生向け科目	
		日本語読解2	1			2															留学生向け科目	
		日本語作文1	1		2																留学生向け科目	
		日本語作文2	1			2															留学生向け科目	
		上級日本語読解1	1				2														留学生向け科目	
上級日本語読解2		1					2													留学生向け科目		
上級日本語作文1		1					2													留学生向け科目		
上級日本語作文2		1						2												留学生向け科目		
小 計			2																			



区分	科目	単位	履修コース		最低単位数 卒業資格	週 時 間 数								備 考	
			自動車工学	交通機械		1年次		2年次		3年次		4年次			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門 教育科目	自動車構造論	2	○			2									二級自動車整備士科目
	自動車運動制御論	2							2						
	自動車技術論	2	○						2						二級自動車整備士科目
	自動車整備工学	2	○							2					二級自動車整備士科目
	交通原動機学1	2	○					2							二級自動車整備士科目
	交通原動機学2	2							2						
	自動二輪工学	2					2								
	基礎鉄道工学	2		○			2								
	鉄道設計	2						2							
	次世代鉄道技術	2								2					
	鉄道保守	2							2						
	鉄道設備	2								2					
	ビーフル制御工学	2							2						
	カーエレクトロニクス	2							2						
	交通機械流れ学	2							2						
	交通システム工学	2		○							2				
	交通環境工学	2									2				
	交通機械空気力学	2									2				
	ビーフルエネルギー工学	2		○							2				
	自動車運動力学	2									2				
	人間-自動車システム論	2									2				
	安全工学と工学倫理	2									2				
	交通ダイナミカルシステム論	2								2					
	福祉機器	2									2				
	車体設計論	2									2				
	船舶工学	2								2					
	航空工学	2								2					
	交通エルゴノミクスデザイン論	2								2					
	交通機械論	2		○						2					
	自動車工学実習1	4	○	-				12							
自動車工学実習2	4	○	-					12							二級自動車整備士科目
自動車工学実習3	4	○	-						12						二級自動車整備士科目
交通機械実験・実習	2		○						6						
セミナー	2	○	○							2					
卒業研究	4	○	○									8	8		
小計					60以上										
総合教育科目、専門教育科目 合計					62										

(交通機械コース  
自動車工学コース  
必修26・選択34以上・合計60以上)  
(自動車工学コース  
必修50・選択10以上・合計60以上)

## 注) 専門教育科目の履修要件

- イ 交通機械工学科においては、履修コースにより、自動車工学コースおよび交通機械コースに分けるものとし、次による当該履修コースの卒業要件単位を満たさなければならない。ただし、自動車工学コースにあっては、別に定められた、国土交通省の定める二級自動車整備士科目をすべて修得しなければならない。
  - (1) 自動車工学コース  
必修科目50単位および選択科目10単位以上、言語文化科目2単位、合計62単位以上とする。
  - (2) 交通機械コース  
必修科目26単位および選択科目34単位以上、言語文化科目2単位、合計62単位以上とする。
- ロ 履修コース変更は、申請に基づいて行う。この申請は入学年度以後の毎学年初めの履修登録期間付近の決められた期間のみで可能。ただし、履修コース変更には以下の制約がある。
  - (1) 自動車工学コースから交通機械コースへの変更は、すべての学年にて認める。
  - (2) 交通機械コースから自動車工学コースへの変更は、認められない。
- ハ 自動車工学コースの者に限り、「自動車工学実習1」、「自動車工学実習2」および「自動車工学実習3」を履修することができる。(自動車工学コース限定科目)  
なお、交通機械コースの者で、履修コース変更前に修得した自動車工学コース限定科目の単位は、選択科目として卒業要件単位数に算入される。
- ニ 自動車工学コースの卒業者に限り、国土交通省の定める二級自動車整備士養成施設での課程(認定大学)を修了したのものとして、「修了証明書」を発行する。  
なお、交通機械コースの卒業者には、上記の「修了証明書」を発行しない。
- ホ 備考欄中の二級自動車整備士科目は、自動車工学コースにおける国土交通省の定める二級自動車整備士の受験資格科目。

## 自動車工学コースの学生へ

- (1) 備考欄中の二級自動車整備士科目のうち、講義科目は16回(定期試験を含む)以上、交通機械基礎実習及び機械製図は15回以上、自動車工学実習1、2及び3は30回以上の授業を行うものとし、毎回出欠の確認を行う。なお、講義科目で13回(定期試験を含む)以上、交通機械基礎実習、機械製図は12回以上、自動車工学実習1、2及び3はそれぞれ24回以上で開講回数の8割以上を出席しなければ、単位を修得することができない。
- (2) 上記一覧表に示す二級自動車整備士の受験資格に係る各科目の毎回の授業における遅刻及び早退はそれぞれ開始後、終了前の15分間以内とし、その15分間を超えた場合、欠席とする。1科目内での遅刻及び早退が3回をもって、1回の欠席とする。
- (3) 上記に示す二級自動車整備士の受験資格に係る各科目の補講について、担当教員の公的理由などにより休講となった場合、必ず、補講を実施する。なお、学生の欠欠や病気などに伴う欠席についての補講は基本的に実施しない。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

2 区分(口)

総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	最低単位数 卒業資格	週 時 間 数								備 考										
				1年次		2年次		3年次		4年次												
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
総合教育科目	言語文化科目 英語	英語(Listening&Speaking)1	1	2	2																	
		英語(Listening&Speaking)2	1			2																
		英語(Listening&Speaking)3	1				2															
		英語(Listening&Speaking)4	1					2														
		TOEIC上級(Listening)1	1					2														
		TOEIC上級(Listening)2	1						2													
		英語(Reading&Writing)1	1			2																
		英語(Reading&Writing)2	1				2															
		英語(Reading&Writing)3	1					2														
		英語(Reading&Writing)4	1						2													
		TOEIC上級(Reading)1	1						2													
		TOEIC上級(Reading)2	1			2				2												
		英語総合(上級)1	1								2											
		英語総合(上級)2	1									2										
	英語海外研修	2					2	2												(集中)		
	日本語	日本語読解1	1		2																留学生向け科目	
		日本語読解2	1			2															留学生向け科目	
		日本語作文1	1		2																留学生向け科目	
日本語作文2		1			2															留学生向け科目		
上級日本語読解1		1				2														留学生向け科目		
上級日本語読解2		1					2													留学生向け科目		
上級日本語作文1		1					2													留学生向け科目		
上級日本語作文2		1						2												留学生向け科目		
小計			2																			



区分	科目	単位	履修コース 交通機械	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門 教育科目	自動車構造論	2			2									二級自動車整備士科目
	自動車運動制御論	2						2						
	自動車技術論	2						2						二級自動車整備士科目
	自動車整備工学	2							2					二級自動車整備士科目
	交通原動機学1	2					2							二級自動車整備士科目
	交通原動機学2	2						2						
	自動二輪工学	2			2									
	基礎鉄道工学	2	○		2									
	鉄道設計	2				2								
	次世代鉄道技術	2							2					
	鉄道保守	2						2						
	鉄道設備	2							2					
	ピークル制御工学	2					2							
	カーエレクトロニクス	2					2							
	交通機械流れ学	2					2							
	交通システム工学	2	○						2					
	交通環境工学	2							2					
	交通機械空気力学	2							2					
	ピークルエネルギー工学	2	○						2					
	自動車運動力学	2							2					
	人間-自動車システム論	2							2					
	安全工学と工学倫理	2							2					
	交通ダイナミカルシステム論	2						2						
	福祉機器	2							2					
	車体設計論	2							2					
	船舶工学	2						2						
	航空工学	2						2						
	交通エルゴノミクスデザイン論	2						2						
	交通機械論	2	○					2						
	自動車工学実習1	4	-				12							
自動車工学実習2	4	-					12							二級自動車整備士科目
自動車工学実習3	4	-						12						二級自動車整備士科目
交通機械実験・実習	2	○						6						
セミナ	2	○						2						
卒業研究	4	○								8	8			
小計				72以上										
総合教育科目、専門教育科目 合計				74										

(交通機械コース 必修44・選択28以上・合計72以上)

24G  
編入生(口)

注) 専門教育科目の履修要件

イ 交通機械工学科での履修コースは交通機械コースとし、次による当該履修コースの卒業要件単位を満たさなければならない。

(1) 交通機械コース

必修科目44単位および選択科目28単位以上、言語文化科目2単位、合計74単位とする。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。



# Chapter 03

## 工学部 都市創造工学科 24K 編入生

<b>01</b>	都市創造工学科の学習・教育到達目標	117
<b>02</b>	入学区分	119
<b>03</b>	履修制限	119
<b>04</b>	卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	120
<b>05</b>	卒業見込証明書／進級の条件と卒業	123
<b>06</b>	カリキュラム	124
<b>07</b>	履修モデル表	130
<b>08</b>	測量士資格取得(都市創造工学科)に関わる科目	133



## 01

## 都市創造工学科の学習・教育到達目標 (2020年4月1日改正)

## (A) 「多面的教養」

人々の幸せや豊かさとは何か、人と自然の共生の重要性を理解し、地球的視点からあるべき未来の都市像を考えることのできる教養を身につける。

- (A-1) 歴史や文学など人文科学分野、あるいは経済や地理学など社会科学分野の幅広い教養を身につける。
- (A-2) 地球の成り立ちや地球環境問題に関する知識を身につける。

## (B) 「技術者倫理」

技術が社会や自然に与える影響の大きさと技術者の社会的責任を理解する。

## (C) 「総合基礎学力」

自然科学の知識と情報処理技術の基礎を習得する。

- (C-1) 数学に関する基礎学力、物理学を主とする自然科学の基礎学力を習得する。
- (C-2) コンピュータと情報処理技術の専門基礎学力を習得する。

## (D) 「都市基盤整備に関する基礎学力」

- (D-1) 構造工学、建設材料、地盤工学、測量学の基礎学力を習得する。
- (D-2) 社会基盤整備関連の情報工学の基礎と処理技術を習得する。

## (E) 「先進都市の創造に必要な知識と技術」

先進都市の創造に必要な知識と基礎技術を習得する。具体的には、1) 自然災害と防災、2) 都市計画と交通システム計画、3) 資源再生と自然エネルギー、4) 構造物設計の4つの学習分野について、分野選択的あるいは分野横断的に学習し、知識と技術を習得する。

## (F) 「デザイン能力」

都市基盤整備の計画から建設、維持管理までの一連の過程に関わる種々の問題について取組み、実現可能な解を見つけ出していくための能力を獲得する。

## (G) 「コミュニケーション能力」

情報の受け手が理解できるように、論理的な文章を記述することができる。あるいは、論理的に話すことができる。意見や主張の異なる他者と議論ができる。

- (G-1) 日本語により、論理的な文章の記述、言葉による説明、あるいは議論ができる。
- (G-2) 英語など外国語により基礎的なコミュニケーションができる。

## (H) 「自主的・継続的学習能力」

都市基盤整備に関連する最新の知識と技術を積極的に学習しようとする習慣を身につける。

## (I) 「計画的実行能力」

与えられた制約のもと、課題に対して自立して計画的に取組み、期限内に成果をまとめることができる。

## (J) 「協働できる能力」

- (J-1) 与えられた課題をチーム内の相互協力の下で計画的に遂行し、協調性とリーダーシップ力を養う。
- (J-2) 立場や意見を異にする他者が存在することを知る。意見の相違を解消し、最適な解決策に探すための方法論を身につける。

以上

**履修指導**

都市創造工学科では、学生が「学習・教育到達目標」を達成するために、都市創造工学科のカリキュラム履修モデル表を示し、卒業までに総合教育科目と専門教育科目をバランス良く履修し、単位修得できるよう履修指導します。

**科目履修および単位修得についての留意事項**

- ①単位の修得にあたっては、講義科目は2/3以上、実験・実習・演習科目は3/4以上の出席を前提条件としています。
- ②都市創造工学科では、学科の学習・教育到達目標に基づき修了要件の科目を指定し、学習保証時間を定めております。科目履修は学科教員の指導のもとに履修申請をしてください。
- ③都市創造工学科のカリキュラム履修モデル表を参照してください。
- ④学習保証時間の確保のために、前期・後期ともに最低15回の授業を行います。
- ⑤基礎科目(数学、物理学、化学)を履修する学生は1年次前期に単位を修得すること。未修得の場合4年間で卒業できないこともあります。
- ⑥卒業研究の論文着手条件として、中間発表を行うこと。
- ⑦卒業研究は、学習保証時間を満した学生について、研究室における日常の学習・研究・ゼミナール活動、および論文構成、プレゼンテーション能力をもって評価する。

## 02 入学区分

編入生は、入学区分(資格)がイ、ロ、ハの3つに分かれます。

区分	該当者
イ	理系の短期大学(短期大学部を含む)、工業高等専門学校、4年制大学を卒業した方、または4年制大学で62単位以上を取得して編入を希望する方を対象とします。編入学前の学校等において修得した単位のうち62単位を一括認定します。
ロ	専修学校を卒業し、かつ4年制大学を卒業しないで編入する方を対象とします。編入学前の学校等において修得した単位のうち50単位を一括認定します。
ハ	文系の短期大学(短期大学部を含む)、高等専門学校、4年制大学を卒業した方、または4年制大学で62単位以上を取得して編入を希望する方を対象とします。編入学前の学校等において修得した単位のうち62単位を一括認定します。

## 03 履修制限

都市創造工学科の履修には入学区分によって制限が異なりますので、注意してください。

### 23K編入生に適用

共通	1年間に履修できる単位数	最大48単位(教職に関する専門教育科目を除く)
	学年による科目の制限	1年次:1年次の配当科目から選択できます。 2年次:1、2年次の配当科目から選択できます。 3年次:1、2、3年次の配当科目から選択できます。 4年次:すべての開講科目から選択できます。
	専門教育科目	「都市創造工学実験」は4年次履修科目として取り扱います。
	入学区分(イ)	・「物理学実験」および「卒業研究論文」を選択科目として取り扱います。
	入学区分(ロ)	・物理および化学に関する科目は入学時のプレイスメントテストの結果、必要に応じて科目を履修し、単位未修得の学生は後期再履修クラスを受講できます。 ・「物理学実験」および「卒業研究論文」を選択科目として取り扱います。
	入学区分(ハ)	・数学、物理および化学は入学時のプレイスメントテストの結果、必要に応じて科目を履修し、単位未修得の学生は後期再履修クラスを受講できます。 ・「物理学実験」、「工学英語」、「卒業研究論文」、「気象災害と防災」、「交通システム工学」および「資源再生論」を選択科目として取り扱います。

卒業要件単位の修得が進級あるいは卒業条件を満足できない場合には2年間での卒業が困難となることがありますので留意してください。また、基礎科目(数学、物理学、化学)の修得には、「学習支援センター」を大いに利用し基礎学力のアップに努めてください。

# 04 卒業要件単位数(外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①編入生は2年間以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると2年で卒業することができません。

②学科で定められた入学区分ごとの卒業要件単位数を修得

カリキュラム上、入学区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位数を修得しても卒業要件単位数に入らない場合がありますので、注意してください。

**単位修得にあたっての留意事項**

- ①単位の修得にあたっては、講義科目は2/3以上、実験・実習・演習科目は3/4以上の出席を最低条件としています。
- ②都市創造工学科では、学科の学習・教育到達目標(P117)に基づき修了要件の科目を指定し、学習保証時間を定めております。
- ③科目履修は学科教員の指導のもとに履修申請をすること。
- ④学習保証時間の確保のために、前期・後期ともに最低15回の授業を行います。
- ⑤15回を確保するため、学年暦にかかわらず補講を行います。

## 入学区分(イ)の卒業要件単位について

- ① 卒業要件単位は、専門教育科目から62単位とする。
- ② 「基礎数学および演習」、「解析学1」、「代数学1」、「数学演習1」、「解析学2」、「代数学2」、「数学演習2」、「基礎物理学および演習」および「基礎化学および演習」を履修することはできない。
- ③ 「物理学実験」および「卒業研究論文」を選択科目として取り扱う。
- ④ 「都市創造工学実験」を4年次履修科目として取り扱う。
- ⑤ 自由科目の卒業要件単位への組み入れについては、専門教育科目の選択必修科目として取り扱い、上限を2単位とする。

専門教育科目	工学基礎科目	「工学基礎数学1」および「工学基礎数学2」のうち、2単位以上	4単位	必修科目40単位 選択必修科目22単位(自由科目2単位を含む)	62単位	学工(工学)
		物理 2単位				
	情報技術基礎	4単位	38単位			
	技術者の素養	10単位				
	都市基盤整備の基礎	21単位				
	実験	2単位				
	デザイン	1単位				
	卒業研究		20単位			
	自然災害と防災					
	交通と都市計画					
	資源とエネルギーの再生					
施工管理技術						
構造設計の応用						
建築士資格・スキル支援						

2年以上在学

## 入学区分(口)の卒業要件単位について

- ① 卒業要件単位は、実践教育科目から3単位以上、専門教育科目から71単位以上、合わせて74単位とする。
- ② 「基礎数学および演習」および「CAD演習1」を履修することはできない。
- ③ 「プログラミング」、「シミュレーション」および「都市情報分析」のうち、1科目以上を修得することとする。
- ④ 「物理学実験」および「卒業研究論文」を選択科目として取り扱う。
- ⑤ 「都市創造工学実験」を4年次履修科目として取り扱う。
- ⑥ 自由科目の卒業要件単位への組み入れについては、専門教育科目の選択必修科目として取り扱い、上限を2単位とする。

実践教育科目		必修科目 2単位・選択必修科目 1単位		74単位	学士(工学)
専門教育科目	工学基礎科目	「工学基礎数学1」および「工学基礎数学2」のうち、2単位以上 物理 4単位	15単位		
	情報技術基礎	2単位	34単位		
	技術者の素養	10単位			
	都市基盤整備の基礎	19単位			
	実験	2単位			
	デザイン	1単位			
	卒業研究	22単位			
	自然災害と防災				
	交通と都市計画				
	資源とエネルギーの再生				
	施工管理技術				
構造設計の応用 建築士資格・スキル支援					
2年以上在学					

## 入学区分(ハ)の卒業要件単位について

- ① 卒業要件単位は、専門教育科目から62単位とする。
- ② 「プログラミング」、「シミュレーション」および「都市情報分析」のうち、1科目以上を修得しなければならない。
- ③ 「物理学実験」、「工学英語」、「卒業研究論文」、「気象災害と防災」、「交通システム工学」および「資源再生論」を選択科目として取り扱う。
- ④ 「地球環境学概論」および「公共事業と環境の経済学」を選択必修科目として取り扱い、1科目以上を修得することとする。
- ⑤ 「都市創造工学実験」を4年次履修科目として取り扱う。
- ⑥ 自由科目の卒業要件単位への組み入れについては、専門教育科目の選択必修科目として取り扱い、上限を2単位とする。

専門教育科目	工 学 基 礎 科 目	「工学基礎数学1」および「工学基礎数学2」のうち、2単位以上 物理 4単位	16単位	必修科目 33単位・選択必修科目 29単位(自由科目2単位を含む)	62単位	学士(工学)
	情 報 技 術 基 礎	2単位	32単位			
	技 術 者 の 素 養	「地球環境学概論」および「公共事業と環境の経済学」のうち、2単位以上				
	都 市 基 盤 整 備 の 基 礎	21単位				
	実 験	2単位				
	デ ザ イ ン	1単位				
	卒 業 研 究		14単位			
	自 然 災 害 と 防 災					
	交 通 と 都 市 計 画					
	資 源 と エ ネ ル ギ ー の 再 生					
	施 工 管 理 技 術					
構 造 設 計 の 応 用						
建 築 士 資 格 ・ ス キ ル 支 援						

2年以上在学

## 05 卒業見込証明書／進級の条件と卒業

### ① 「卒業見込証明書」

入学区分ごとの下記の条件を満たし、4年次の履修登録が完了すると、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

入学区分「イ」および「ハ」の学生:卒業資格最低単位数62単位のうち、「測量学実習」を含む32単位以上を修得していること。

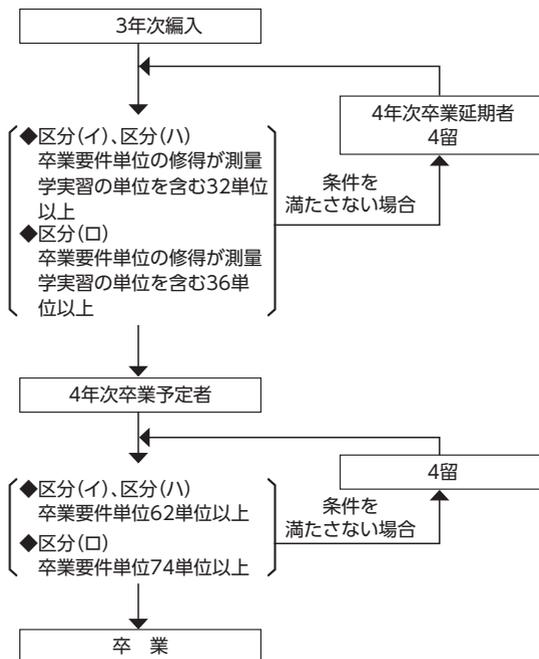
入学区分「ロ」の学生:卒業資格最低単位数74単位のうち、「測量学実習」を含む36単位以上を修得していること。

卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階、梅田サテライト)を利用してください。

### ② 進級の条件

修得単位数に関する進級制限はありませんので、4年次まで進級は可能です。しかし、3年次修了時点で下記の条件を満たしていなければ、2年間では卒業できなくなります。また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

なお、1年間で最大48単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。



※ 卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

# 06 カリキュラム

## 入学区分(イ)

### 専門教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考									
				1年次		2年次		3年次		4年次											
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
工学基礎科目	代 数 学	3	2	2以上			2														
	解 析 学	3	2				2														
	工 学 基 礎 数 学 1	1	2	4以上					2												
	工 学 基 礎 数 学 2	2	2							2											
	物 理 学 1 お よ び 演 習	2	2	2以上	4	(4)															
	物 理 学	2	2			2	(2)														
	物 理 学 実 験	2	2		(4)	4															
	化 学 1 お よ び 演 習	2	2		4	(4)															
	化 学	2	2				2	(2)													
	化 学 実 験	2	2		4	(4)															
情報技術基礎	プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	2	4以上						2											
	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン	2	2					2													
	都 市 情 報 分 析	2	2				2														
	地 球 環 境 学 概 論	②	②		2	(2)															
	公 共 事 業 と 環 境 の 経 済 学	②	②				2	(2)													
	工 学 英 語	②	②						2	(2)											
	工 学 倫 理	②	②		2																
	建 設 マ ネ ー ジ メ ン ト	②	②							2											
	C A D 演 習	1	②				2														
	技術者の素養	測 量 学	②	②	38以上		2	(2)													
測 量 学 実 習		①	①				2														
建 設 材 料 1		1	②				2	(2)													
建 設 材 料 2		2	②						2	(2)											
構 造 力 学 1		②	②				2	(2)													
構 造 力 学 2		②	②					2	(2)												
構 造 力 学 演 習		②	②				2	(2)													
土 質 力 学 1		②	②				2	(2)													
土 質 力 学 2		②	②				2	(2)													
土 質 力 学 演 習		②	②						2	(2)											
都市基盤整備の基礎	都 市 創 造 工 学 実 験	②	②						6	(6)											
	都 市 創 造 デ ザ イ ン	①	①							2											
実験	都 市 創 造 工 学 実 験	②	②																		
デザイン	都 市 創 造 デ ザ イ ン	①	①																		
卒業研究	卒 業 研 究 論 文	6	6																		
				合計	62以上																

編入生は4年次に履修

24 K 編入生







入学区分(ハ)

専門教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考					
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
工学基礎科目 専門教育科目 技術者の素養 都市基盤整備の基礎 実験 デザイン 卒業研究	基礎数学および演習	3	16以上	6	(6)										プレースメント科目		
	解析学	1		2	2	(2)										プレースメント科目	
	代数学	1		2	2	(2)										プレースメント科目	
	数学演習	1		1	2	(2)										プレースメント科目	
	解析学	2		②		2	(2)										
	代数学	2		②		2	(2)										
	数学演習	2		①		2	(2)										
	代数学	3		2			2										
	解析学	3		2			2										
	工学基礎数学	1		2	2以上				2								
	工学基礎数学	2		2	2以上					2							
	基礎物理学および演習	2			4以上	4	(4)										プレースメント科目
	物理学1および演習	2				4	(4)										プレースメント科目
	物理学	2		2		2	(2)										
	物理学実験	2				(4)	4										
	基礎化学および演習	2			2以上	4	(4)										プレースメント科目
	化学1および演習	2		4		(4)										プレースメント科目	
	化学	2	2	2		(2)											
	化学実験	2		4		(4)											
	プログラミング	2		2以上		2											
	シミュレーション	2				2											
	都市情報分析	2					2										
	地球環境学概論	2		2以上	2	(2)											
	公共事業と環境の経済学	2			2	(2)											
	工学英語	2		32以上					2	(2)							
	工学倫理	②			2												
	建設マネジメント	②									2						
	CAD演習	1	②				2										
	測量学	②				2	(2)										
	測量学実習	①					2										
	建設材料	1	②					2	(2)								
	建設材料	2	②						2	(2)							
構造力学	1	②					2	(2)									
構造力学	2	②						2	(2)								
構造力学演習	②						2	(2)									
土質力学	1	②				2	(2)										
土質力学	2	②					2	(2)									
土質力学演習	②							2	(2)								
都市創造工学実験	②						6	(6)						編入生は4年次に履修			
都市創造デザイン	①							2									
卒業研究論文	6									10	10						

必修33・選択必修29以上  
合計62以上



都市創造工学科 24K入学区分(イ)のカリキュラム履修モデル表(学科の学習・教育到達目標に基づく)

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
工学基礎科目 工学基礎科目1および 物理 物理学分野から2単位以上 化学基礎科目から4単位以上	数学 物理学1および演習	代数学3 解析学3	工学基礎数学1	工学基礎数学2					工学基礎数学1および 工学基礎数学2から2単位 以上 物理分野から2単位以上 工学基礎科目から4単位以上
	物理 物理学2 物理学実験								
	化学 化学実験	化学2							
情報技術基礎		プログラミング	シミュレーション	都市情報分析					4単位以上
技術者の素養	○地球環境学概論 ○工学倫理	○公共事業と環境の経済学		○建設マネジメント					
都市基礎認識の基礎	○測量学	○測量学 ○測量学演習 ○構造力学1 ○土質力学1	OCADS演習1 ○測量学演習 ○構造力学1 ○土質力学1	○建設材料1 ○測量学演習 ○構造力学演習 ○土質力学2	○建設材料2 ○土質力学演習				
実験									
デザイン									
卒業研究									
自然災害と防災			○気象災害と防災	地震災害と防災					
交通と都市計画			○交通システム工学	都市計画					
環境とエネルギー の共生			自然エネルギー工学	資源再生論					
施工管理技術									
構造設計の応用									
建築士資格・ スキル支援									

○は必修科目



都市創造工学科 24K入学区分(H)のカリキュラム履修モデル表(学科の学習・教育到達目標に基づく)

分野	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
工学基礎 科目	基礎数学および演習(P) 解析学1(P) 数学演習1(P)	代数学2 ○解析学2 ○代数学2 ○数学演習2	代数学3 解析学3		工学基礎数学1	工学基礎数学2			[工学基礎数学1]および [工学基礎数学2]から2単位以上 物理分野から4単位以上 工学基礎科目から16単位以上 (P)はブレースメント科目
	基礎物理学および演習(P) 物理学1および演習(P) 物理学実験	物理学2 物理学実験							
	基礎化学および演習(P) 化学1および演習(P) 化学実験	化学2							
情報技術基礎		プログラミング	シミュレーション	都市情報分析					2単位以上
技術者の素養	地球環境学概論 ○工学倫理	公共事業と環境の経済学			工学英語	○建設マネージメント			
都市基礎整備の基礎		○測量学	OCAD演習1 ○測量学演習 ○測量力学1 ○土質力学1	○建設材料1 ○構造力学演習 ○構造力学2 ○土質力学2	○建設材料2 ○土質力学演習				
実験									
デザイン									
卒業研究									
自然災害と防災			気象災害と防災	地震災害と防災	水理学1				
交通と都市計画			交通システム工学	都市計画	土木計画学				
資源とエネルギーの再生			自然エネルギー工学	資源再生論	環境工学1 環境システム				
施工管理技術					建設工学				
構造設計の応用					建設工学 鉄筋コンクリート 鉄筋コンクリート演習				
建築士資格・ スキル支援					まちづくり演習1 まちづくり演習2 特別講義1 特別講義2 特別講義3 特別講義4 特別講義5 特別講義6 特別講義7 特別講義8 特別講義9 特別講義A				建築士試験 都市資格 コンピュータ 設計演習 維持管理工学 構造工学 地盤工学 橋梁工学 CAD演習2 まちづくり演習3 特別講義3 特別講義B

(○) は必修科目

[地球環境学概論]および  
[公共事業と環境の経済学]から  
2単位以上

## 08

## 測量士資格取得(都市創造工学科)に関わる科目

科目名	単位	最低修得単位数	
解析学2	②		
代数学2	②		
数学演習2	①		
物理学実験	②		
測量学	②		
測量学実習	①		
構造力学1	②		
構造力学2	②		
構造力学演習	②		
土質力学1	②		
土質力学2	②		
土質力学演習	②		
都市創造工学実験	②		
気象災害と防災	②		
交通システム工学	②		
必修科目小計	28		
基礎数学および演習	3		測量学・測量学実習の3単位を含む 30単位以上
解析学1	2		
代数学1	2		
数学演習1	1		
代数学3	2		
解析学3	2		
工学基礎数学1	2		
工学基礎数学2	2		
基礎物理学および演習	2		
物理学1および演習	2		
物理学2	2		
都市情報分析	2		
地震災害と防災	2		
水理学1	2		
水理学2	2		
水理学演習	2		
都市計画	2		
土木計画学	2		
地域・計画学演習	2		
構造工学	2		
地震工学	2		
橋梁工学	2		
選択科目小計	44		
合計	72	30	

単位数を○でかこんだものは必修科目



# Chapter 03

## 工学部 電気電子情報工学科 24L 編入生

<b>01</b> 卒業要件単位数 .....	137
<b>02</b> 卒業研究 .....	139
<b>03</b> 卒業見込証明書 .....	139
<b>04</b> カリキュラム .....	140



# 01 卒業要件単位数

## 1 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。

高等教育課程を修了し、かつ、電気電子情報学科が定める学力基準を満たしていると認めた

専門教育科目	必修科目	8単位	62単位	学士(工学)
	選択必修科目	12単位		
	選択科目(自由科目4単位を含む。)	42単位		
2年以上在学				

### ▶ 総合教育科目(総合教育科目は全て卒業要件単位に入りません。)

### ▶ 専門教育科目(62単位)

① 必修科目 (卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コースに○印のついた科目です。)

#### 【電気電子工学コース】

「電気電子工学実験」、「電気電子情報工学ゼミナール」、「卒業研究」の3科目8単位を必ず修得してください。「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

#### 【電子情報工学コース】

「電子情報工学実験」、「電気電子情報工学ゼミナール」、「卒業研究」の3科目8単位を必ず修得してください。「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

② 選択必修科目 (特定の科目群から指定された単位を修得します。)

#### 【電気電子工学コース】

電気電子工学科目および「情報通信工学1」、「システムと制御」、「情報通信機器」、「デジタル信号処理」から12単位以上を修得してください。

#### 【電子情報工学コース】

電子情報工学科目および「計測とセンシング」、「電子回路設計」、「光・電磁波工学」、「光エレクトロニクス」から12単位以上を修得してください。

③ 選択科目 (必修科目以外の中から自由に選んで修得します。)

①②以外に42単位を修得してください。1年次配当の専門教育科目は修得しても卒業要件単位に入りません。また、「基礎数学および演習」は履修することができません。

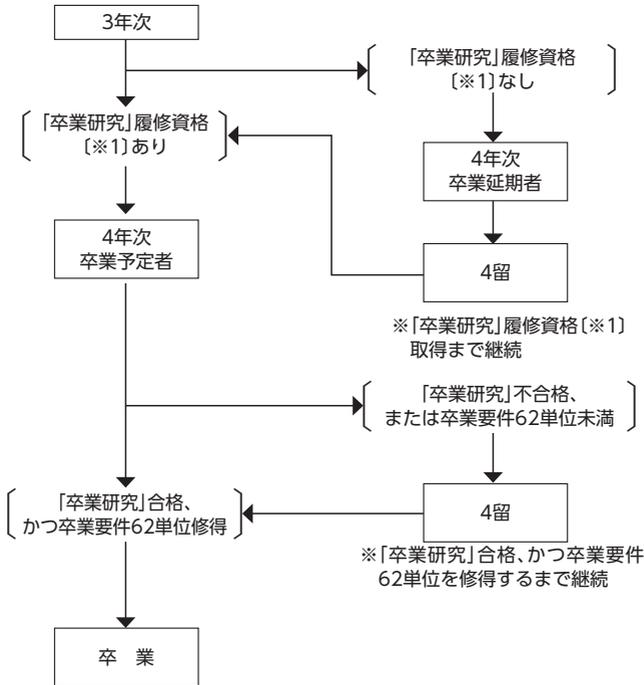
②選択必修科目の要件を越えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入されます。

## 2 進級の条件

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できませんが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

### 進級および卒業までの流れ



※1

①卒業要件単位36単位以上修得  
かつ

②電気電子工学コース：「電気電子工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得  
電子情報工学コース：「電子情報工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得

※卒業延期者においては、前期(半期)科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

## 02 卒業研究

### ① 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。なお、「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

### ② 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

- ①卒業要件単位36単位以上を修得していること。
- ②電気電子工学コース：「電気電子工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得していること。

電子情報工学コース：「電子情報工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得していること。

## 03 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、18号館1階、梅田サテライトキャンパス)を利用してください。

# 04 カリキュラム

開講時期については、前期と後期が替わることがありますので、時間割を確認してください。

## 専門教育科目

(各履修コースの○印は必修科目、□印は選択必修科目、-印はコースによって履修できない科目を表す。)

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考			
			電気電子工学 コース	電子情報工学 コース		1年次		2年次		3年次		4年次					
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門 教育 科目	共通 基 礎 科 目	基礎数学および演習	4	-	-	6										**	
		解析学	1	2		2	(2)										*
		代数学	1	2		2	(2)										*
		数学演習	1	1		2	(2)										*
		解析学	2	2		2	(2)										*
		代数学	2	2		2	(2)										*
		数学演習	2	1		2	(2)										*
		解析学	3	2				2									
		代数学	3	2				2									
		幾何学	1	2				2									
		幾何学	2	2					2								
		電気と数学	2	2				2									*
		確率と統計	2	2					2								
		応用数学	1	2						2							
		応用数学	2	2							2						
		基礎物理学および演習	2	2				4									*
		物理学1および演習	2	2				4	(4)								*
		物理学	2	2				2									*
		化学	1	2				4									*
		化学	2	2				2									*
		基礎電磁気学	1	2				2	(2)								*
		基礎電磁気学	2	2						2	(2)						
		電磁気学	1	2						2							
		電磁気学	2	2							2						
		回路の基礎	2	2				2	(2)								*
		電気回路	1	2				2	(2)								*
		電気回路	2	2					2								
		線形回路論	2	2						2							
		基礎電子回路	2	2						2							
		アナログ電子回路	2	2							2						
		論理回路	2	2						2							
		デジタル回路	2	2							2						
		電子デバイス	2	2						2							
		電気電子計測	2	2						2							
制御工学	1	2							2								
制御工学	2	2								2							
計算機工学概論	2	2						2									
基礎プログラミング	1	2					2								*		
基礎プログラミング	2	2						2									
応用プログラミング	2	2							2								

(必修8・選択必修12・選択42 合計62)

※備考欄に\*印のある科目は修得しても卒業要件単位に入りません。

備考欄に\*\*印のあるものは履修できません。



## (工学部修学規程)

- (1) 卒業要件単位は、専門教育科目から62単位とする。
- (2) 1年次配当のすべての専門教育科目については、必修科目を含め、修得した単位を卒業要件単位に算入することができない。
- (3) 2年次配当の必修科目「電気電子情報基礎演習2」および「電気電子情報工学基礎実験」については、選択科目として取り扱う。
- (4) 専門基礎科目の「基礎数学および演習」については、履修することができない。なお、プレースメントテストは、すべて実施しない。
- (5) 専門応用科目について、電気電子工学コースは電気電子工学科目および「情報通信工学1」「システムと制御」、「情報通信機器」、「デジタル信号処理」から12単位以上、電子情報工学コースは電子情報工学科目および「計測とセンシング」、「電子回路設計」、「光・電磁波工学」、「光エレクトロニクス」から12単位以上を修得することとする。
- (6) 自由科目の卒業要件単位への組み入れについては、専門教育科目の選択科目として取り扱い、上限を4単位とする。



大阪産業大学  
OSAKA SANGYO UNIVERSITY